# **LT 7400A**

SDI マルチ回線チェッカ

取扱説明書



# 目次

製品を安全	にご使用いただくために
1. はじめ	ار عاد
1.1 保	
	証範囲
	用上の注意
1. 2. 1	入力端子の最大許容電圧について
1. 2. 2	衝撃について
1. 2. 3	静電気破壊について
1. 2. 4	予熱について
1. 2. 5	_ ラックへの取り付けについて
1.3 商	漂について
2. 製品仕	:様
	要
	長
	恪
2. 3. 1	入力信号
2. 3. 2	出力信 <del>号</del>
2. 3. 3	入出力端子4
2. 3. 4	制御端子4
2. 3. 5	PC動作環境
2. 3. 6	監視項目 (PCアプリ)
2. 3. 7	エラーカウント(PCアプリ)(
2. 3. 8	ログ (PCアプリ)
2. 3. 9	日付と時刻
2. 3. 10	接続
2. 3. 11	一般仕様
3. 各部の	・ ・名称と働き
	面パネル
3.2 背	面パネル
4. 測定を	- 始める前に 1(
	ステム概要
	バーインレットストッパーの取り付け1
	原の投入
	アプリのインストール
	アプリのアンインストール
	続
	mアドレスの設定
4. 7. 1	アトレスの設定
4. 7. 1 4. 7. 2	IPアドレスの変更
	IPアドレスの初期化
4. /. J	- リテドレヘツタフフキマ政にド

4	4.	8 注	主意事項	20
5.		測定	の基本 2	21
ı	5.	1 7	しカ信号の監視	21
	5.		こう一の発生とクリア	
•		5. 2. 1	- 分元エピップグ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		5. 2. 1	検出エラー	
		5. 2. 2	ステータスエラー	
		5. 2. 3 5. 2. 4		
		5. 2. 4 5. 2. 5	電源エラー	
		· · - · ·	DCファンエラー	
;			こうーログと周波数偏差ログ	
		5. 3. 1	ログの保存	
		5. 3. 2	ログの確認	
		5. 3. 3	エラーログの説明	
		5. 3. 4	周波数偏差ログの説明	
ļ	5.	4 重	协作ログ	
		5. 4. 1	ログの確認	34
		5. 4. 2	ログの説明	34
6.		PCア	プリの説明 3	35
	6.	1 =	= ニター1 画面の説明	26
	o. 6.		= - ター1 画面の説明	
	o. 6.		= タ 2 画面の説明	
	o. 6.	-		
		-	<sup>4</sup> ニューバーの説明	
(	6.		景境設定	
		6. 5. 1	エリア名称とネットワークの設定	
		6. 5. 2	日付と時刻の設定	
		6. 5. 3	接続方法の設定	
		6. 5. 4	表示と周波数偏差の設定4	
		6. 5. 5	ログの設定	
		6. 5. 6	警告音の設定	
		6. 5. 7	SNMPの設定!	
(	ô.	6 ∄	詳細設定	51
7.		SNMP	Ę	53
	7.	1 0	NMPバージョン!	ፍ <b>շ</b>
	7. 7.		NMPマネージャの設定!	
	7. 7.			
	-		NMPエージェントの設定!!	
	7.		票準MIB	
	7.		太張MIB	
	7.	•••	太張TRAP(	
		7. 6. 1	注意事項	
		7. 6. 2	Specific Trap	
		7. 6. 3	Variable Binding List	66
8		ソフ	トウエアの変更履歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67

# ■ ご使用になる前に

本製品は、電気的知識(工業高校の電気、電子系の課程卒業程度以上)を有する方が、本取扱説明書の内容をご理解いただいた上で使用する計測器です。

一般家庭、消費者向けに設計、製造された製品ではありません。

電気的知識のない方が使用する場合には、人身事故および製品に損害を生じるおそれがありますので、必ず電気的知識を有する方の監督の下でご使用ください。

# ■ 取扱説明書をご覧になる際の注意

本取扱説明書で説明されている内容は、一部に専門用語も使用されていますので、もし、ご理解できない場合は、ご遠慮なく本社またはお近くの営業所までお問い合わせください。

# ■ 絵表示および文字表示について

本取扱説明書および製品には、製品を安全に使用する上での、必要な警告および注意事項を示す下記の絵表示と文字表示が使用されています。

# 〈絵表示〉 本取扱説明書および製品にこの絵表示が表記されている箇所は、その部分で 誤った使い方をすると、使用者の身体および製品に重大な危険を生じる可能性 があるか、または製品および他の接続機器が意図しない動作となり、運用に支 障をきたす可能性があることを表します。 この絵表示の部分を使用する際には、必ず本取扱説明書の記載事項を参照して ください。 この表示を無視して誤った使い方をすると、使用者が死亡または重傷を負う可 〈文字表示〉 能性があり、その危険を避けるための警告事項が記載されていることを表しま す。 この表示を無視して誤った使い方をすると、使用者が軽度の傷害を負うかまた 〈文字表示〉 は製品に損害を生じるおそれがあり、その危険を避けるための注意事項が記載 注意 されていることを表します。

下記に示す使用上の警告、注意事項は、使用者の身体、生命に対する危険および製品の損傷、劣化などを避けるためのものです。必ず下記の警告、注意事項を守ってご使用ください。



# ■ 製品のケースおよびパネルに関する警告事項

製品のケースおよびパネルは、いかなる目的があっても使用者は絶対に外さないでください。 内部に手を触れると、感電および火災の危険があります。

また、内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや金属片などを入れたりしないでください。 そのまま通電すると、火災、感電、故障、事故などの原因となります。

# ■ 設置環境に関する警告事項

#### ●動作温度範囲について

製品は、 $0\sim40$   $\mathbb{C}$  の温度範囲内でご使用ください。製品の通風孔をふさいだ状態や、周辺の温度が高い状態で使用すると、火災の危険があります。

また、温度差のある部屋への移動など急激な温度変化で、製品内部が結露し、製品破損の原因となる場合があります。結露のおそれのある場合には、電源を入れずに30分程度放置してください。

#### ●動作湿度範囲について

製品は、85%RH以下(ただし、結露のないこと)の湿度範囲内でご使用ください。 また、濡れた手で操作しないでください。感電および火災の危険があります。

#### ●ガス中での使用について

可燃性ガス、爆発性ガスまたは蒸気が発生あるいは貯蔵されている場所、およびその周辺での使用は、爆発および火災の危険があります。このような環境下では、製品を動作させないでください

#### ●異物を入れないこと

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、水をこぼしたりしないでください。火災、感電、故障、事故などの原因となります。

#### ■ 使用中の異常に関する警告事項

使用中に製品から発煙、発火、異臭などの異常が生じたときは、火災の危険がありますので、 ただちに使用を中止してください。本体の電源スイッチを切り、電源コードのプラグをコンセ ントから抜いてください。他への類焼がないことを確認した後、本社またはお近くの営業所ま でご連絡ください。



# ■ 電源に関する警告事項

製品に表示された定格電源電圧以外では使用しないでください。火災の危険があります。 電源コードを電源に接続する前に、その電圧を確認してください。 電源周波数は、必ず 50/60Hz でご使用ください。

電源電圧に応じた電源コードをご使用ください。また、ご使用になる国の安全規格に適合した電源コードをご使用ください。

適合した電源コード以外のものを使用すると、火災の危険があります。電源コードが損傷した 場合は使用を中止し、本社またはお近くの営業所までご連絡ください。電源コードが損傷した ままご使用になると、感電および火災の危険があります。

また、電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

# ■ 接地に関する警告事項

製品には使用者の感電防止および製品保護のため、接地端子が設けてあります。安全に使用するために、必ず接地してからご使用ください。



# ■ 入力、出力端子に関する注意事項

入力端子には、製品を破損しないために本取扱説明書に記載された仕様以外の入力は、供給しないでください。また、出力端子をショートしたり、外部から電力を供給したりしないでください。

製品故障の原因となります。

# ■ 長期間使用しない場合の注意事項

長期間使用しない場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

# ■ イーサーネット端子に関する注意事項

事業者用設備に接続する場合は、ご使用になる国で認定されたハブを介して接続してください。

## ■ 校正および修理について

製品は、工場出荷時、厳正な品質管理の下で仕様に基づいた性能の確認を実施していますが、部品の経年変化等により、性能に多少の変化が生じることがあります。製品の性能を安定した状態でお使いいただくため、定期的な校正をおすすめします。また、動作に不具合等があれば、修理が必要となります。製品校正および修理についてのご相談は、お買い上げになりました取扱代理店、本社または各営業所へご連絡ください。

# ■ 日常のお手入れについて

清掃のときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

製品のケース、パネル、つまみの汚れを清掃する場合は、シンナーやベンジンなどの溶剤は避けてください。塗装がはがれたり、樹脂面が侵されたりすることがあります。ケース、パネル、つまみ等を拭くときは、中性洗剤を含ませた柔らかい布で軽く拭き取ってください。また、清掃のときは、製品の中に水、洗剤、その他の異物が入らないようにご注意ください。製品の中に液体、金属などが入ると、感電および火災の原因となります。

# ■ 欧州の WEEE 指令によるマークについて



本製品および付属品は、欧州の WEEE 指令の対象品です。

本製品および付属品を廃棄するときは、各国、各地域の法規制に従って処理してください。また、本製品から取り外した電池は、EU 電池指令に従って処理してください。

(WEEE 指令:廃電気電子機器指令, Waste Electrical and Electronic Equipment)

以上の警告、注意事項を順守し、正しく安全にご使用ください。また、取扱説明書には個々の項目でも注意事項が記載されていますので、それらの注意事項を順守し、正しくご使用ください。

取扱説明書の内容でご不審な点、またはお気付きの点がありましたら、本社またはお近くの営業所まで ご連絡いただきますよう、併せてお願いいたします。

# 1. はじめに

このたびは、リーダー電子の計測器をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。 製品を安全にご使用いただくため、ご使用前に本取扱説明書を最後までお読みいただき、製品の 正しい使い方をご理解の上、ご使用ください。

本取扱説明書をご覧になっても使い方がよくわからない場合は、取扱説明書の裏表紙に記載されている本社またはお近くの営業所までお問い合わせください。

本取扱説明書をお読みになった後は、いつでも必要なとき、ご覧になれるように保管してください。

# 1.1 保証範囲

この製品は、リーダー電子株式会社の厳密なる品質管理および検査を経てお届けしたものです。 正常な使用状態で発生する故障について、お買い上げの日より1年間無償で修理を致します。 お買い上げ明細書(納品書、領収書など)は、保証書の代わりになりますので、大切に保管して ください。

保証期間内でも、次の場合には有償で修理させていただきます。

- 1. 火災、天災、異常電圧などによる故障、損傷。
- 2. 不当な修理、調整、改造された場合。
- 3. 取り扱いが不適当なために生じる故障、損傷。
- 4. 故障が本製品以外の原因による場合。
- 5 お買い上げ明細書類のご提示がない場合。

この保証は日本国内で使用される場合に限り有効です。

This Warranty is valid only in Japan.

## 1.2 使用上の注意

#### 1.2.1 入力端子の最大許容電圧について



入力端子に加える信号電圧には以下のような制限があります。制限を超える電圧を加えると 故障や損傷する場合がありますので、この値以上の電圧を加えないでください。

#### 表 1-1 最大入力電圧

入力端子	最大入力電圧	
INPUT LINE1~LINE8	±2V (DC+ピーク AC)	

# 1.2.2 衝撃について

本器は精密な部品を使用していますので、落下などの強い衝撃が加えられた場合、故障の原因となることがあります。

## 1.2.3 静電気破壊について

電子部品は、静電気放電によって故障、損傷するおそれがあります。同軸ケーブルの芯線には、静電気が帯電している可能性があります。両端とも接続されていない同軸ケーブルを本器の入出力端子に接続する際は、一度、同軸ケーブルの芯線と外部導体をショートさせてください。

# 1.2.4 予熱について

より正確な動作を確保するため、使用の30分くらい前に電源を入れ、内部温度を安定させてください。

# 1.2.5 ラックへの取り付けについて

本器をラックへ取り付けてご使用になる場合は、必ず本体部分を支える機構部品をご用意ください。前面パネルのフランジだけで取り付けた状態で使用しますと、筐体の変形や落下の危険があります。

なお、本器はEIA規格の19インチラックに対応しています。

# 1.3 商標について

記載されている会社名および各商品名は、各社の商標または登録商標です。

# 2.1 概要

本器は、専用のWindows アプリケーション(以下、PC アプリ)とイーサーネット接続することで、8 系統のSDI 信号をエラー監視できる装置です。また、PC アプリには本器を12 台まで接続できるため、最大96 系統のSDI 信号を同時にエラー監視することもできます。エラーの監視、および制御はPC アプリで行い、エラーログを日付ごとに自動保存できます。多入力でありながらエラー監視機能に的を絞り、PC を導入することでローコストを実現しています。

# 2.2 特長

#### ● 8系統のシリアルデジタル入力

8系統のSDI信号を同時に監視することが可能です。

#### ● 8系統のシリアルデジタル出力

各入力系統の SDI 信号をリクロック出力することが可能です。

#### ● 専用 Windows アプリケーションによるエラー監視

専用アプリケーションにより、LT 7400A 1 台につき 8 系統、最大 12 台 96 系統の SDI 信号を一元管理します。イーサーネットで接続していますので遠隔監視も可能です。またエラーログも日付ごとに管理され、ハードディスクに自動保存されます。

#### ● 多種なエラー検出機能

CRC エラーなどのビデオ信号エラーをはじめ、エンベデッドオーディオ信号、アンシラリデータに関するさまざまなエラーを検出できます。

#### ● 周波数偏差測定

SDI 信号のサンプリング周波数の偏差を測定できます。サンプリング周波数の偏差を測定することで、フィールド周波数やフレーム周波数の偏差も確認できます。

# 2.3 規格

#### 2.3.1 入力信号

カラーシステム	量子化精度	スキャニング	フレーム(フィールド) 周波数	対応規格
YC <sub>B</sub> C <sub>R</sub> 4:2:2	10bit	1080 i	60/59. 94/50	SMPTE ST 274
		1080p	30/29. 97/25/24/23. 98	SMPTE ST 292
		1080PsF	30/29. 97/25/24/23. 98	
		720p	60/59. 94/50/30/29. 97/25/24/23. 98	SMPTE ST 292
				SMPTE ST 296
		525 i	59. 94	SMPTE ST 259
		625 i	50	

アンシラリデータ規格SMPTE ST 291エンベデッドオーディオ規格SMPTE ST 299フォーマット自動検出

# 2.3.2 出力信号

出力信号のリクロック出力

# 2.3.3 入出力端子

SDI 入力端子

入力端子 BNC コネクタ 8 端子

入力インピーダンス 75Ω

入力リターンロス 15dB 以上 (5MHz~1.485GHz)

最大入力電圧 ±2V (DC+ピーク AC)

SDI 出力端子

出力端子 BNC コネクタ 8 端子

出力インピーダンス 75Ω

出力リターンロス 15dB 以上 (5MHz~1.485GHz)

出力電圧 800mVp-p±10%

# 2.3.4 制御端子

イーサーネット端子

 対応規格
 IEEE802.3

 入出力端子
 RJ-45

機能 外部 PC による遠隔操作およびエラー等の監視

種類 10Base-TX

USB 端子メンテナンス用D-sub 9 ピン端子メンテナンス用

#### 2. 3. 5 PC 動作環境

0S Microsoft Windows Vista Business Edition SP2

> Microsoft Windows XP Professional SP3 Microsoft Windows 7 Professional SP1

(いずれも日本語、32 ビット版)

CPU インテル® Core™2 Duo 2.1GHz 以上

ディスプレイ解像度 WXGA (1280×768)以上

メモリー 2GB 以上 ハードディスク 80GB 以上

スピーカー 警告音を鳴らす場合

#### 2. 3. 6 監視項目 (PC アプリ)

SDI 信号のステータス表示 信号検出 SDI 信号の有無を表示

信号強度 受信している信号強度を3段階で表示

HD-SDI(LS-5CFB を想定)

約~20mのケーブルで伝送 STRONG 約20~70mのケーブルで伝送 MEDIUM

WEAK 約70m~のケーブルで伝送 SD-SDI (L-5C2V を想定)

約~50mのケーブルで伝送 **STRONG** 約50~200mのケーブルで伝送 MEDIUM 約 200m~のケーブルで伝送 WEAK

ビデオ信号フォーマットを表示 フォーマット

設定外のフォーマットを検出すると、赤くエラー表示 オーディオチャンネル SDI に多重されているオーディオチャンネルを表示

サンプリング周波数の偏差を表示

周波数偏差

測定範囲  $-50 \sim +50 \text{ppm}$ 測定モード

内蔵オシレーターモード LT 7400Aの内蔵オシレータを基準として、偏差を測

定

LINE1 から再生したクロックを基準として、LINE2~ SDI:LINE1/LINE5 モード

LINE4 の偏差を測定

LINE5 から再生したクロックを基準として、LINE6~

LINE8 の偏差を測定

測定精度

内蔵オシレーターモード  $\pm 2$ ppm

SDI:LINE1/LINE5 モード ±0.1ppm (相対値)

SDI 信号のエラー検出

CRC エラーHD-SDI 信号の伝送エラーを検出EDH エラーSD-SDI 信号の伝送エラーを検出

TRS エラー TRS の位置およびプロテクションビットのエラーを検

出

イリーガルコードエラー TRS、ADF ヘッダ以外での 000h~003h、3FCh~3FFh の

データを検出

ラインナンバーエラー HD-SDI 信号のラインナンバーエラーを検出

アンシラリデータのエラー検出

チェックサムエラー アンシラリデータの伝送エラーを検出

パリティエラーアンシラリデータヘッダのパリティエラーを検出

エンベデッドオーディオのエラー検出

BCH エラー HD-SDI 信号に多重されたオーディオパケットの伝送

エラーを検出

パリティエラー HD-SDI 信号に多重されたオーディオパケットのパリ

ティエラーを検出

DBN エラー オーディオパケットの連続性エラーを検出

CRC エラー オーディオデータのチャンネルステータスビットの

CRC エラーを検出(プロフェッショナルモード時の

み)

オーディオサンプルエラー 音声データのサンプル数が同期音声で定められたサ

ンプル数でない場合に、エラー検出

アンシラリデータパケットの多重位置エラー検出

オーディオデータエラー オーディオデータの多重位置エラーを検出

日本語字幕エラー 日本語字幕の多重位置エラーを検出

放送局間制御信号エラー 放送局間制御信号の多重位置エラーを検出

データトリガパケットエラー データトリガパケットの多重位置エラーを検出

ユーザーデータ1パケットエラー ユーザーデータ1パケットの多重位置エラーを検出 ユーザーデータ2パケットエラー ユーザーデータ2パケットの多重位置エラーを検出

2.3.7 エラーカウント (PC アプリ)

エラーカウント エラーの発生数を表示

カウント数 ~9999 回

2.3.8 ログ (PC アプリ)

エラーログ
エラーの発生とエラーからの復帰を記録

周波数偏差ログ 最短で5秒おきの周波数偏差を記録

ログファイル回線名ごとに自動保存

 ファイル形式
 TXT / CSV

 ファイル名
 日付

2. 3. 9	日付と時刻	
	ユーザー設定	PC アプリで LT 7400A の日時を設定
	SNTP サーバー	LT 7400A が SNTP サーバーから日時を取得
2. 3. 10	接続	
	接続方法 LT 7400A と PC を 1:1 で接続 ログ、エラーカウント周期 通信周期 LT 7400A と PC を LAN へ接続 ログ、エラーカウント周期 通信周期 ポート番号 LT 7400A 最大接続数	フィールド/フレーム単位 50msec 1~10sec 1~10sec 10110
2. 3. 11	一般仕様	
	環境条件	
	動作温度範囲	0~40°C
	動作湿度範囲	85%RH以下(ただし、結露のないこと)
	性能保証温度範囲	10∼30℃
	使用環境	屋内
	使用高度	2000m まで
	過電圧カテゴリ	П
	汚染度	2
	電源(2 重化) 電圧	AC 90∼250V
	周波数	50Hz/60Hz
	消費電力	35W max.
	寸法	482 (W) $\times$ 44 (H) $\times$ 350 (D) mm
	重量	3. 3kg
		電源コード2
		カバーインレットストッパー2

CD (アプリケーション、取扱説明書).....1

# 3. 各部の名称と働き

# 3.1 前面パネル

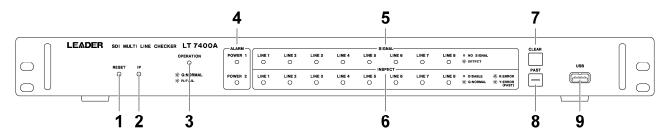


表 3-1 前面パネルの名称と働き

No.	名称	働き	参照	
1	RESET	メンテナンス用のリセットスイッチです。通常は使用しません。	_	
2	IP	LT 7400Aに設定されている IPアドレスを、以下の値に初期化します。	4. 7. 2	
		先の細いもので長押ししてください。スイッチを押すと再起動します。		
		IPアドレス: 192.168. 0. 1		
		サブネットマスク: 255. 255. 255. 0		
		デフォルトゲートウェイ: 0. 0. 0. 0		
3	OPERATION	LT 7400A と PC の接続状態を表示します。	4. 3	
		緑点灯: 接続中	5. 2. 1	
		赤点灯: 未接続		
		黄点滅: 起動中		
4	ALARM	電源1、電源2の状態を表示します。		
		消灯: 正常		
		赤点灯: 異常 SDI信号の検出状態を表示します。		
5	SIGNAL	SDI信号の検出状態を表示します。		
		緑点灯: 検出		
		消灯: 未検出		
6	INSPECT	SDI 信号のエラー検出状態を表示します。		
		緑点灯: エラー未検出		
		赤点灯: エラー検出中		
		黄点灯: エラー検出履歴あり (PAST を押したときのみ)		
		消灯: SDI 信号が未検出		
7	CLEAR	PAST が ON のときに、エラーをクリアします。		
8	PAST	ONにすると、エラー検出履歴のあった回線を確認できます。 5.		
9	USB	メンテナンス用の USB 端子です。通常は使用しません。 -		

# 3. 各部の名称と働き

# 3.2 背面パネル

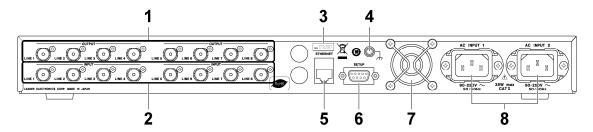


表 3-2 背面パネルの名称と働き

No.	名称	働き	参照
1	OUTPUT	INPUT に入力した SDI 信号のリクロック信号を出力します。	-
2	INPUT	SDI 信号を入力します。	4. 8
3	シリアルラベル	製造番号が印字されています。	-
4	接地端子	外部のグラウンドと接続します。	-
5	ETHERNET	10BASE-T および 100BASE-TX 対応のイーサーネット端子です。	4. 6
		PC と 1∶1 で接続、または LAN に接続します。	7
		また、SNMP を使用しての監視もできます。	
6	SETUP	メンテナンス用の D-sub 9 ピン端子です。通常は使用しません。	-
7	DC ファン	本体冷却用の DC ファンです。	5. 2. 5
8	電源入力端子	AC 電源の入力端子です。2 重化電源です。	4. 2
		付属のカバーインレットストッパーを取り付けてください。	4. 3
			5. 2. 4

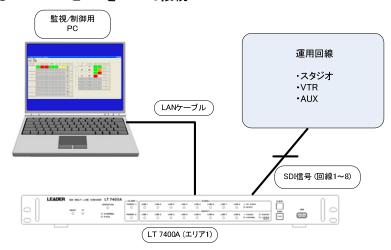
# 4. 測定を始める前に

# 4.1 システム概要

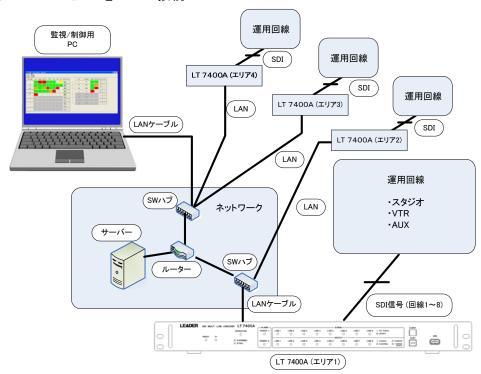
PC にインストールした PC アプリで、LT 7400A に入力した SDI 信号を監視します。SDI 信号は LT 7400A 1 台につき 8 回線まで入力でき、LT 7400A は 12 台まで接続できます。 本システムでは、LT 7400A をエリア  $(1\sim12)$ 、SDI 信号を回線  $(1\sim8)$  と呼んでいます。

LT 7400A と PC はイーサーネット接続します。接続方法は、1:1 で接続する方法と、LAN に接続する方法の 2 種類です。1:1 で接続する場合、LAN ケーブルはクロスとストレートの両方に対応しています。

## ●LT 7400A と PC を 1:1 で接続



#### ●LT 7400A と PC を LAN へ接続



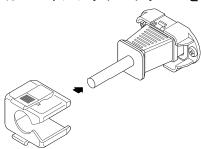
※ 1台のLT 7400A を複数のPCアプリで監視することはできません。

# 4.2 カバーインレットストッパーの取り付け

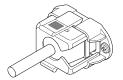
電源コードが引っぱられて電源入力端子から抜けることを防ぐために、抜け防止用のカバーインレットストッパーが付属されています。以下の手順で取り付けてください。

## ●取り付け

1. カバーインレットストッパーを電源コードにかぶせます。



2. カバーインレットストッパーを、電源入力端子にカチッと音がするまで押し込みます。



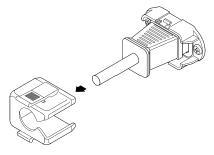
3. カバーインレットストッパーが電源入力端子にロックされていることを確認します。

## ●取り外し

1. カバーインレットストッパーのレバーの部分を2本の指で押して、ロックを外します。



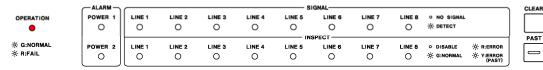
2. カバーインレットストッパーを、電源入力端子から引き抜きます。



# 4.3 電源の投入

本器に電源スイッチはありません。AC INPUT 1、および AC INPUT 2 に電源コードを接続してください。2 系統の電源を使用することによって、片方の電源系統に故障が発生しても、継続して動作ができます。どちらか一方の電源でも動作できますが、前面パネルの ALARM が点灯します。

起動中は前面パネルの OPERATION が黄色で点滅します。約1分30秒後、OPERATION が赤く点灯したら起動完了です。



# 4.4 PCアプリのインストール

以下の手順で、PC アプリを PC にインストールします。(Windows XP の場合)

1. PC アプリをアップデートする場合は、旧 PC アプリをアンインストールします。

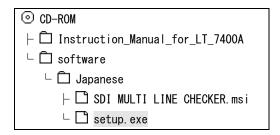
旧 PC アプリのバージョンが 2.03 以前のときは、ログデータをバックアップのうえ、マイドキュメントの LEADER フォルダを削除してください。

LEADER フォルダを削除すると、ログデータや今まで使用していた設定が削除されます。 IP アドレス等は、PC アプリのインストール後に再度設定してください。

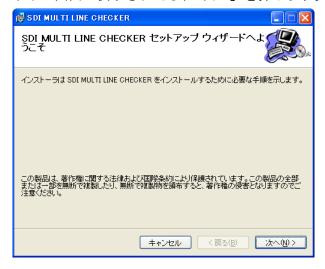
【参照】「4.5 PCアプリのアンインストール」

2. 付属 CD-ROM の「setup. exe」を実行します。

CD-ROM のフォルダ構成は、以下のとおりです。



3. 以下の画面が表示されたら、「次へ」を押します。



4. 以下の画面が表示されたら、フォルダを確認してから「次へ」を押します。



5. 以下の画面が表示されたら、「次へ」を押します。



6. 以下の画面が表示されたら、インストール完了です。「閉じる」を押します。



# 4.5 PCアプリのアンインストール

以下の手順で、PCからPCアプリをアンインストールします。(Windows XPの場合)

1. 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」→「SDI MULTI LINE CHECKER」→「削除」を選択します。



2. 「はい」を選択します。



3. 必要に応じて、マイ ドキュメントの LEADER フォルダを削除します。

LEADER フォルダには、各種ログデータや設定データが含まれています。 PC アプリを削除しても、LEADER フォルダは削除されません。

#### LT 7400A を監視する PC を変更する場合

変更する PC のマイ ドキュメントへ LEADER フォルダをコピーまたは移動することで、今までと同じ環境で監視できます。

## PC アプリをアップデートする場合

LEADER フォルダを残したまま PC アプリをインストールすることで、今までと同じ環境で 監視できます。ただし、旧 PC アプリのバージョンが 2.03 以前のときは、正しく動作しま せん。アップデートの際はログデータをバックアップのうえ、LEADER フォルダを削除し てください。

# 4.6 接続

ここでは、複数のLT 7400AとPCを接続するときの手順について説明します。「4.7.2 IPアドレスの初期化」を参照して、すべてのLT 7400Aを初期化しておいてください。

1台のLT 7400AとPCを接続する場合は、「手順1」~「手順5」を行います。

## 1. PCのIPアドレスを設定します。

以下のとおり設定してください。

IPアドレス	192. 168.   0. *** (*** = 2~254)
サブネットマスク	255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ	0. 0. 0. 0

LT 7400Aには、以下の値が設定されています。

IPアドレス	192. 168. 0.	1
サブネットマスク	255. 255. 255.	0
デフォルトゲートウェイ	0. 0. 0.	0

## 2. 1台目のLT 7400AとPCをLANケーブルで接続します。

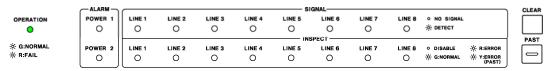
この時点では、複数のLT 7400A を同時に接続しないでください。

#### 3. PC アプリを開きます。

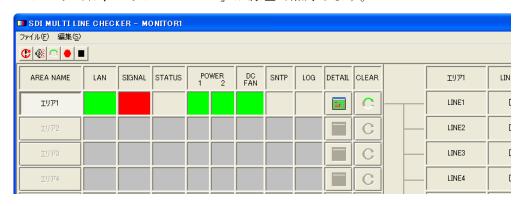
デスクトップの「SDI\_CHECKER. exe」をダブルクリックしてください。 PC アプリが開きます。



LT 7400A と PC が正しく接続されると、LT 7400A 前面パネルの OPERATION が緑色で点灯します。LT 7400A と PC の接続には、数秒かかります。



PC アプリでは、エリア1の「LAN」が緑色で点灯します。



#### 4. 測定を始める前に

4. PC アプリで「編集」 $\rightarrow$ 「環境設定」 $\rightarrow$ 「エリア名称とネットワーク」を選択し、エリア 1 の「装置 IP アドレス」を変更します。

「192.168.0.1」は初期設定時のみに使用するものとし、監視時の IP アドレスは「192.168.0.1」以外としてください。

ここでは例として、「192.168.0.1」から「192.168.0.2」に変更します。



5. 「オフライン」のチェックを外して、「設定」を押します。

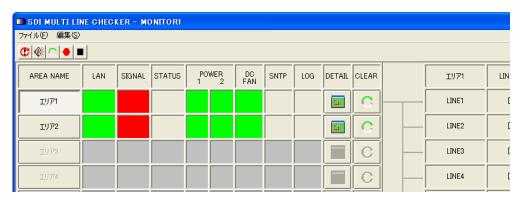
IP アドレスが LT 7400A に設定され、LT 7400A が再起動します。 設定した値によっては、再起動後、LT 7400A と PC が接続されません。このときは、すべての LT 7400A の設定が完了してから PC の IP アドレスを変更し、PC アプリを再起動してください。

- 6. 2台目のLT 7400A をネットワークに接続します。
- 7. **エリア 2 の「未使用」を押し、「オフライン」にチェックを入れて、「設定」を押します**。 このとき、「装置 IP アドレス」は「192. 168. 0. 1」のままにします。



#### 4. 測定を始める前に

LT 7400A と PC が接続され、LT 7400A 前面パネルの OPERATION が緑色で点灯します。また、PC アプリでは、エリア 2 の「LAN」が緑色で点灯します。



8. エリア2の「装置 IP アドレス」を変更します。

ここでは例として、「192.168.0.1」から「192.168.0.3」に変更します。



9. 「オフライン」のチェックを外して、「設定」を押します。

IP アドレスが LT 7400A に設定され、LT 7400A が再起動します。

10. 同様に、3 台目以降の LT 7400A を接続します。

「手順6」~「手順9」を繰り返してください。LT 7400A は12 台まで接続できます。

# 4.7 IPアドレスの設定

#### 4.7.1 IP アドレスの変更

LT 7400Aの IP アドレスは、以下の手順で任意の値に変更できます。 IPアドレスを変更するには、LT 7400AとPCがイーサーネット接続されていることが必要です。 「4.6 接続」を参照して、接続された状態から操作を行ってください。

1. PC アプリで、「編集」→「環境設定」→「エリア名称とネットワーク」を選択します。



2. 各項目を変更し、「オフライン」のチェックを外して、「設定」を押します。

IP アドレスが LT 7400A に設定され、LT 7400A が再起動します。 設定した値によっては、再起動後、LT 7400A と PC が接続されません。このときは PC の IP アドレスを変更してから、PC アプリを再起動してください。

#### 4.7.2 IP アドレスの初期化

LT 7400Aの IP アドレスが不明の場合は、初期化することで以下の値に戻ります。 前面パネルの IP を先の細いもので長押ししてください。LT 7400A が再起動し、初期化され ます。

IP アドレス	192. 168. 0. 1
サブネットマスク	255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ	0. 0. 0. 0

#### 4.7.3 IP アドレスのオフライン設定

PC アプリの「オフライン」は、LT 7400A と PC が接続されていない状態で使用します。 「オフライン」を使用することで、LT 7400A と PC が接続できるようになります。

#### ●LT 7400Aの IP アドレスと、PC アプリの「装置 IP アドレス」が異なるとき

LT 7400Aの IP アドレスと、PC アプリの「装置 IP アドレス」は同一である必要があります。たとえば LT 7400Aの IP アドレスが「192. 168.0.5」、PC アプリの「装置 IP アドレス」が「192. 168.0.1」のとき、LT 7400Aと PC は接続されません。また、「設定」も無効になっています。



このときは「装置 IP アドレス」を「192.168.0.5」にし、「オフライン」にチェックを入れてから「設定」を押すことで、接続できます。



#### ●未使用のエリアに、LT 7400A を接続するとき

たとえばエリア 2 に LT 7400A を接続するときは、「未使用」を「使用」に変更してから「装置 IP アドレス」を設定しますが、この時点では「設定」が無効になっています。



このときは「オフライン」にチェックを入れてから「設定」を押すことで、接続できます。



#### 4. 測定を始める前に

# 4.8 注意事項

## ●SDI 信号入力端子について

各端子はは内部で75Ωに終端されているため、終端器の接続は不要です。

本器は、800mVp-pのストレスパターンを以下のケーブルで受信したときに、エラーが発生しないことを検査しています。

HD-SDI: LS-5CFB ケーブル、110m SD-SDI: L-5C2V ケーブル、260m

#### ●エラー検出について

本システムでは、LT 7400A から PC にデータを送信し、PC から LT 7400A に処理の終了を送信するまでの 1 サイクルを、通信周期内に終了する必要があります。(通信周期は、PC アプリの環境設定で設定)

この1サイクルが通信周期内に終了しないときは、エラー検出を行いません。ただし、次のサイクルに前回のエラー情報を OR することで、エラー検出の取りこぼしを防いでいます。

以下のようなときに、1サイクルが通信周期内に終了しないことがあります。

- ·PC アプリのグラフィック処理時
- ・PC 負荷の増大時
- ・ネットワーク上でのパケット損失、遅延時

# 5. 測定の基本

# 5.1 入力信号の監視

ここでは、基本的な操作手順をしまします。「4.3 PCアプリのインストール」、「4.6 接続」、「4.7 IPアドレスの設定」を参照して、LT 7400AとPCが接続された状態から操作を行ってください。

1. PC アプリで「編集」→「環境設定」を選択し、各項目の設定をします。

設定した内容は、各タブで「設定」を押したときに確定します。

【参照】「6.5 環境設定」



2. PC アプリで「編集」→「詳細設定」を選択し、各項目の設定をします。

回線名やエラー検出の設定を、エリア別、回線ごとに設定します。

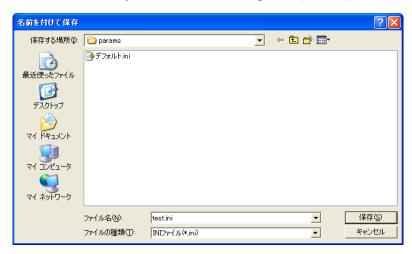
【参照】「6.6 詳細設定」



3. PC アプリの「詳細設定」で、「パラメータファイル」→「名前を付けて保存」を選択します。

「詳細設定」で設定した内容は、エリアごとにパラメータファイルとして保存する必要があります。パラメータファイルとは「詳細設定」で設定した内容をまとめたもので、運用システムに合わせた設定を即座に呼び出せるものです。

初回起動時は「デフォルト. ini」が呼び出されています。ファイル名を入力して、「保存」を押してください。(「デフォルト. ini」に上書き保存もできます)



5. LT 7400A 背面パネルの INPUT に SDI 信号を入力します。

1台につき、最大8系統の信号を入力できます。

6. モニター画面で各回線を監視します。

監視画面には、モニター1 画面、モニター2 画面、詳細画面があり、各画面を切り換えて 監視します。

モニター1 画面とモニター2 画面の切り換えは、画面左上の 

○ で行います。

詳細画面は、モニター1 画面またはモニター2 画面で、DETAIL を押します。(同時に複数 エリアの詳細画面は開けません)

【参照】「6.1 モニター1画面の説明」「6.2 モニター2画面の説明」「6.3 詳細画面の説明」

■ SDI MULTI LINE CHECKER - MONITORI ファイル(E) 編集(S) **C**|®|∩|•|= LAN SIGNAL STATUS POWER DC SNTP LOG DETAIL CLEAR SIGNAL STATUS LOG FILE CLEAR AREA NAME LINE NAME □ C LINE1 回線1 □ C ©8**9**2 □ C LINE2 E C LINE3 D893 ta i O89.4 エリア4 LINE4 C C D886 C

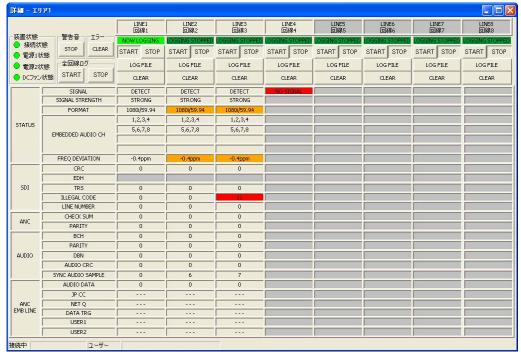
モニター1 画面 (全エリアの概略状態)

#### 5. 測定の基本

モニター2画面(全エリアの概略状態)



#### 詳細画面(選択エリアの詳細状態)



# 5.2 エラーの発生とクリア

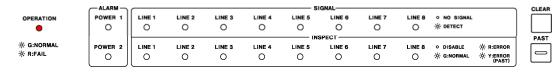
ここでは、接続エラー(LAN)、検出エラー(SIGNAL)、ステータスエラー(STATUS)、電源エラー (POWER)、DC ファンエラー(DC FAN)が発生したときの、LT 7400A と PC アプリの動作について説明します。

# 5.2.1 接続エラー

接続エラーとは、LT 7400AとPCが切断することをいいます。

### ●エラー発生時

LT 7400A では、OPERATION が赤色で点灯します。



PC アプリでは、モニター画面の「LAN」と詳細画面の「接続状態」を、赤色で表示します。



PC アプリの環境設定で「装置との接続断に鳴らす」がオンのときは、警告音も鳴ります。 警告音は、以下の操作で停止できます。

- ・モニター画面の **®** または **□** (回線ごとの CLEAR を除く)
- ・詳細画面の「警告音 STOP」または「エラーCLEAR」

【参照】「6.5.6 警告音の設定」

#### ●エラー復帰時

LT 7400A と PC が接続すると、LT 7400A では OPERATION が緑色に変わります。



PC アプリでは、モニター画面の「LAN」と詳細画面の「接続状態」が、橙色に変わります。 これは、過去に接続エラーが発生したことを表しています。

モニター画面 詳細画面



橙色の表示は、以下の操作で緑色に変わります。

- ・モニター画面の 🤷 (回線ごとの CLEAR を除く)
- ・詳細画面の「エラーCLEAR」
- ・LT 7400Aの「CLEAR」(PASTがONのとき)

# 5.2.2 検出エラー

検出エラーとは、監視対象の SDI 信号が検出されないことをいいます。

## ●エラー発生時

たとえば回線1のSDI信号が検出されないと、LT 7400AではLINE 1が消灯します。



PC アプリでは、モニター画面と詳細画面の「SIGNAL」を、赤色で表示します。



PC アプリの詳細設定で「警告音」が ON のときは、警告音も鳴ります。 警告音は、以下の操作で停止できます。

- ・モニター画面の 🕙 または 🦺
- ・詳細画面の「警告音 STOP」または「CLEAR」
- ・LT 7400Aの「CLEAR」(PASTがONのとき)

【参照】「6.5.6 警告音の設定」

## ●エラー復帰時

回線 1 の SDI 信号が検出されると、LT 7400A では LINE 1 が緑色で点灯します。 PAST を押しても、緑色のままで変わりません。



PC アプリでは、モニター画面の「SIGNAL」が緑色に変わり、詳細画面の「SIGNAL」は無色に変わります。

モニター画面 詳細画面 SDI MULTI LINE CHECKER - MONITORI 詳細 - エリア1 ファイル(E) 編集(S) 装置状能 警告音 T5~ 接続状態 CLEAR STOP START STOP START STO AREA NAME POWER 電源1状態 LAN SIGNAL STATUS DC FAN SNT 全回線ログ ● 電源2状態 LOG FILE LOG FILE START | STOP エリア1 DCファン状態 CLEAR CLEAR STGNAI DETECT DETECT STGNAL STRENGTH STRONG STRONG

### 5.2.3 ステータスエラー

ステータスエラーとは、SDI 信号に発生する、STATUS エラー(SIGNAL を除く)、SDI エラー、ANC エラー、AUDIO エラー、ANC EMB LINE エラーのことをいいます。

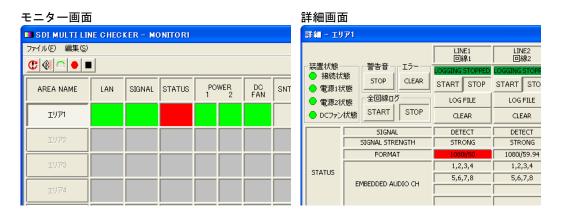
SDI、ANC、AUDIOでは、エラーの発生回数が詳細設定で設定したしきい値を超えたときにエラーとみなします。エラーの発生回数がしきい値以下のとき、詳細画面ではエラーカウントしますが、LT 7400AやPCアプリでは赤色表示しません。また、警告音も鳴りません。

# ●エラー発生時

たとえば回線 1 に FORMAT にエラーが発生すると、LT 7400A では LINE 1 の INSPECT が赤色で点灯します。PAST を押しても、赤色のままで変わりません。



PC アプリでは、モニター画面の「STATUS」と詳細画面の「FORMAT」を、赤色で表示します。

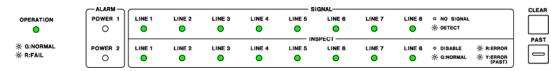


PC アプリの詳細設定で「警告音」が ON のときは、警告音も鳴ります。エラーが発生している間、警告音は停止できません。

【参照】「6.5.6 警告音の設定」

#### ●エラー復帰時

回線1のエラーがなくなると、LT 7400A ではLINE 1の INSPECT が緑色に変わります。

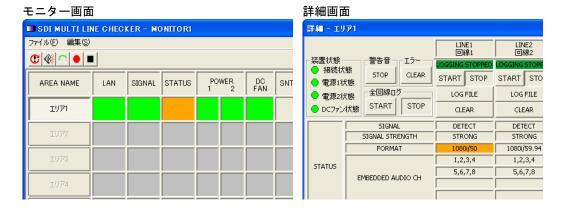


この状態でLT 7400A の PAST を押すと、LINE 1 の INSPECT が黄色で表示されます。これは、過去にステータスエラーが発生したことを表しています。



PC アプリでは、モニター画面の「STATUS」と詳細画面の「FORMAT」が、橙色に変わります。これは、過去にステータスエラーが発生したことを表しています。

(ただし FORMAT と FREQ DEVIATION 以外は、エラーがなくなっても赤色のままです)



LT 7400A の黄色表示や PC アプリの橙色、赤色表示は、以下の操作で緑色に変わります。

- ・モニター画面の 🦺
- ・詳細画面の「CLEAR」
- ・LT 7400Aの「CLEAR」(PAST が ON のとき)

警告音は、エラーがなくなっても鳴り続けます。 以下の操作で、警告音を停止できます。

- ・モニター画面の 🕙 または 으
- ・詳細画面の「警告音 STOP」または「CLEAR」
- ・LT 7400Aの「CLEAR」(PASTがONのとき)

## 5.2.4 電源エラー

電源エラーとは、LT 7400A の電源1または電源2に異常が発生することをいいます。

#### ●エラー発生時

たとえば電源1に異常が発生すると、LT 7400AではPOWER 1が赤色で点灯します。



PC アプリでは、モニター画面の「POWER 1」と詳細画面の「電源1 状態」を、赤色で表示します。



PC アプリの環境設定で「装置電源異常時に鳴らす」がオンのときは、警告音も鳴ります。 警告音は、以下の操作で停止できます。

- ・モニター画面の 🕙 または 🦲 (回線ごとの CLEAR を除く)
- ・詳細画面の「警告音 STOP」または「エラーCLEAR」
- ・LT 7400Aの「CLEAR」(PASTがONのとき)

【参照】「6.5.6 警告音の設定」

#### ●エラー復帰時

電源1のエラーがなくなると、LT 7400A では POWER 1が消灯します。



PC アプリでは、モニター画面の「POWER 1」と詳細画面の「電源 1 状態」が、橙色に変わります。これは、過去に電源エラーが発生したことを表しています。



橙色の表示は、以下の操作で緑色に変わります。

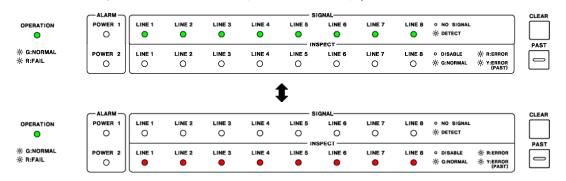
- ・詳細画面の「エラーCLEAR」
- ・LT 7400Aの「CLEAR」(PASTがONのとき)

# 5.2.5 DC ファンエラー

DC ファンエラーとは、LT 7400A の DC ファンに異常が発生することをいいます。 DC ファンエラーが発生したときは、ただちに LT 7400A の電源を切り、本社またはお近くの営業所までお問い合わせください。

#### ●エラー発生時

LT 7400A では、SIGNAL と INSPECT が交互に点灯します。



PC アプリでは、モニター画面の「DC FAN」と詳細画面の「DC ファン状態」を、赤色で表示します。



PC アプリの環境設定で「装置 DC ファン異常時に鳴らす」がオンのときは、警告音も鳴ります。

【参照】「6.5.6 警告音の設定」

# 5.3 エラーログと周波数偏差ログ

エラーログではLT 7400Aで発生したエラーや復旧の情報、周波数偏差ログでは周波数偏差の情報を、テキスト形式またはCSV形式で、回線ごとに保存できます。

# 5.3.1 ログの保存

以下の手順で保存します。「5.1 入力信号の監視」を参照して、PCアプリで入力信号を監視している状態から操作を行ってください。

# 1. 日付と時刻の設定をします。

「環境設定」の「日付と時刻」で、ログで使用する日時を設定します。

【参照】「6.5.2 日付と時刻の設定」



#### 2. ログの設定をします。

「環境設定」の「ログ」で、ログの保存場所とファイル形式を設定します。 出荷時は、エラーログのみ記録する設定になっています。周波数偏差ログを記録すると きは、「周波数偏差のログ収集」にチェックを入れてください。

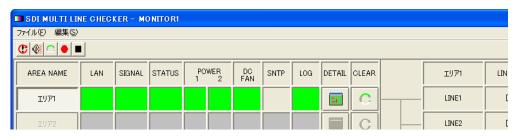
【参照】「6.5.5 ログの設定」



#### 3. ログの記録を開始します。

モニター画面左上の ● を押すことで、全エリア、全回線のログを一斉に記録できます。 また、■ を押すと、一斉に停止できます。

記録を開始すると、モニター画面の「LOG」が、エリアごとに緑色で表示されます。



ログの記録を個別に行うときは、詳細画面を開きます。

「全回線ログ START」では選択したエリアの全回線、「START」では選択した回線のログを記録します。記録を停止するには「STOP」を押してください。

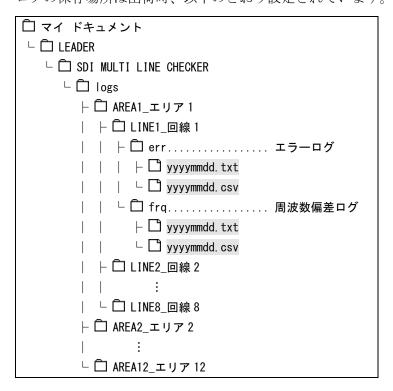
記録を開始すると、詳細画面の「LOGGING STOPPED」が「NOW LOGGING」に変わります。



#### 5.3.2 ログの確認

保存したログを確認するには、モニター1画面または詳細画面で「LOG FILE」を選択してください。選択した回線の err フォルダが、エクスプローラで開きます。周波数偏差ログを確認するときは、frg フォルダを参照してください。

ログの保存場所は出荷時、以下のとおり設定されています。



### 5.3.3 エラーログの説明

エラーログの一例を以下に示します。

エラーログには、以下の情報がカンマ区切りで記録されます。 定期的にファイルのバックアップや削除を行ってください。

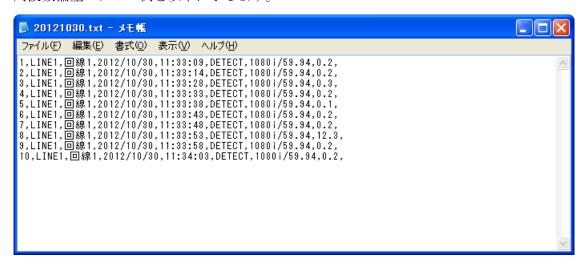
#### 表 5-1 エラーログの説明

-7.5	=V nn
項目	説明
No.	発生順に番号が付きます。
回線番号	LINE1~LINE8 のいずれかを表示します。
回線名	詳細設定で入力した回線名を表示します。
日付	環境設定の日付と時刻で設定した日付を表示します。
時刻	環境設定の日付と時刻で設定した時刻を表示します。
信号検出	信号検出時は「DETECT」、未検出時は「NO_SIGNAL」を表示します。
	「NO_SIGNAL」の場合は、以降の項目がブランクとなります。
フォーマット	フォーマットを表示します。
	未対応フォーマットの場合は「UNKOWN」を表示します。
	「UNKOWN」の場合は、以降の項目がブランクとなります。
FRQ	FREQ DEVIATIONにエラーが発生したときに表示します。
CRC	CRC にエラーが発生したときに表示します。
EDH	EDH にエラーが発生したときに表示します。
TRS	TRS にエラーが発生したときに表示します。
ILLEGAL	ILLEGAL CODEにエラーが発生したときに表示します。
LINE	LINE NUMBERにエラーが発生したときに表示します。
CHK	CHECK SUM にエラーが発生したときに表示します。
PRTY	PARITY (ANC) にエラーが発生したときに表示します。
A_BCH	BCH にエラーが発生したときに表示します。
A_PRTY	PARITY (AUDIO) にエラーが発生したときに表示します。
A_DBN	DBN にエラーが発生したときに表示します。
A_CRC	AUDIO CRCにエラーが発生したときに表示します。
A_SYNC	SYNC AUDIO SAMPLEにエラーが発生したときに表示します。
A_INH	AUDIO DATAにエラーが発生したときに表示します。
J_CC_INH	JP CCにエラーが発生したときに表示します。
Q_INH	NET Qにエラーが発生したときに表示します。

項目	説明
TRG_INH	DATA TRGにエラーが発生したときに表示します。
US1_INH	USER1 にエラーが発生したときに表示します。
US2_INH	USER2 にエラーが発生したときに表示します。

# 5.3.4 周波数偏差ログの説明

周波数偏差ログの一例を以下に示します。



周波数偏差ログには、以下の情報がカンマ区切りで記録されます。

測定周期は最短で5秒です。設定にもよりますが、96回線分記録した場合、1日で180MB程度使用します。定期的にファイルのバックアップや削除を行ってください。

表 5-2 周波数偏差ログの説明

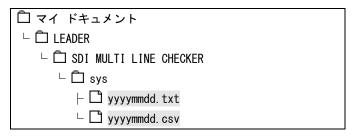
項目	説明
No.	発生順に番号が付きます。
回線番号	LINE1~LINE8 のいずれかを表示します。
回線名	詳細設定で入力した回線名を表示します。
日付	環境設定の日付と時刻で設定した日付を表示します。
時刻	環境設定の日付と時刻で設定した時刻を表示します。
信号検出	信号検出時は「DETECT」、未検出時は「NO_SIGNAL」を表示します。
フォーマット	フォーマットを表示します。
	未対応フォーマットの場合は「UNKOWN」を表示します。
	「UNKOWN」の場合は、以降の項目がブランクとなります。
周波数偏差	周波数偏差を表示します。

# 5.4 動作ログ

LT 7400Aの状態やPCアプリの操作内容が、テキスト形式またはCSV形式で自動保存されます。

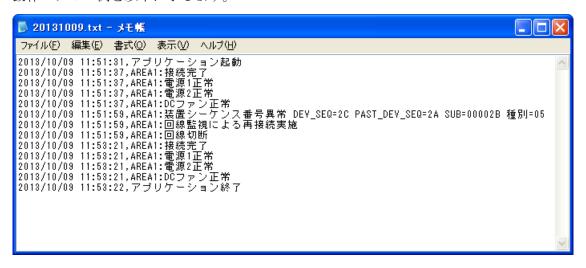
# 5.4.1 ログの確認

保存したログを確認するには、以下の sys フォルダを参照してください。 ログの保存場所は変更できません。



# 5.4.2 ログの説明

動作ログの一例を以下に示します。



動作ログには、以下の情報が記録されます。 定期的にファイルのバックアップや削除を行ってください。

表 5-3 動作ログの説明

項目	説明
日付	PC で設定した日付を表示します。
時刻	PC で設定した時刻を表示します。
エリア名	AREA1~AREA12 のいずれかを表示します。
	アプリケーション起動/終了には表示しません。
動作内容	LT 7400A の状態を表示します。
	「装置シーケンス番号異常」は、以下のときに発生することがあります。
	・PC アプリの起動、終了時
	・PC アプリのグラフィック処理時
	・PC 負荷の増大時
	・ネットワーク上でのパケット損失、遅延時

# 6. PC アプリの説明

PC アプリでは、モニター1 画面、モニター2 画面、詳細画面で各回線の状態を監視します。 また、各種設定はメニューバーから行います。

モニター1 画面とモニター2 画面の切り換えは、画面左上の <sup>♥</sup> で行います。 詳細画面は、モニター1 画面またはモニター2 画面で、DETAIL を押します。

#### ●モニター1 画面

PC アプリを立ち上げた直後に表示される画面です。 全エリアの状態と、選択したエリアの回線状態を監視できます。



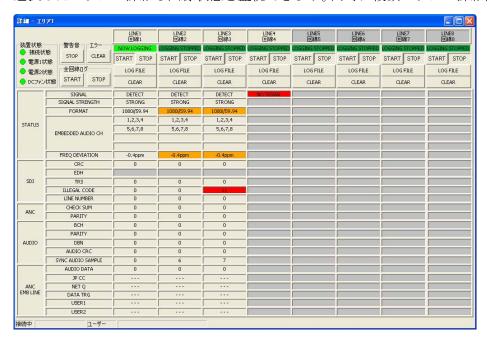
#### ●モニター2画面

全エリア、全回線の状態を監視できます。

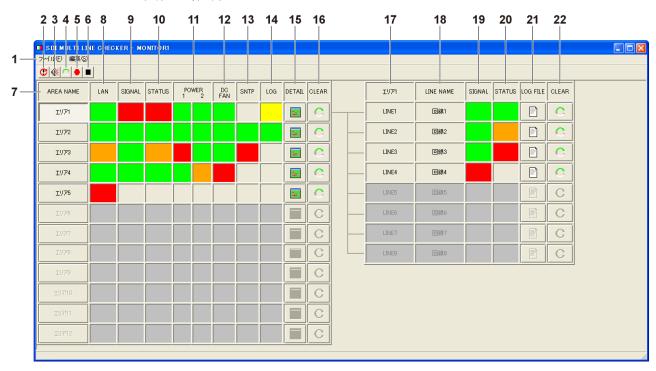


#### ●詳細画面

選択したエリアの詳細な回線状態を監視できます。同時に複数エリアの詳細画面は開けません。



# 6.1 モニター1 画面の説明



# 1 メニューバー

各種設定をします。

# 2 💌

モニター1画面とモニター2画面を切り換えます。

#### 6. PC アプリの説明

# 3

全回線の警告音を停止します。ステータスエラーの発生中は、停止できません。

#### 4 🙃

全回線のエラーをクリアします。警告音も停止します。

# 5

全回線のエラーログと周波数偏差ログの記録を開始します。

# 6

全回線のエラーログと周波数偏差ログの記録を停止します。

# 7 AREA NAME

環境設定の「エリア名称とネットワーク」で設定したエリア名を表示します。 クリックすると、画面右半分に選択したエリアの状態を表示します。

#### 8 LAN

LT 7400A と PC の接続状態を表示します。

**緑** : 接続

赤 : 切断

橙: 切断履歴あり

#### 9 SIGNAL

監視対象回線で、SDI 信号が検出されているかを表示します。

緑 : 全回線で検出

赤: いずれかの回線で未検出

#### 10 STATUS

監視対象回線のステータスエラーを表示します。橙色よりも赤色が優先されます。

緑 : 全回線でエラーなし

赤: いずれかの回線で、下記エラー発生中

(FORMAT, FREQ DEVIATION, SDI, ANC, AUDIO, ANC EMB LINE)

橙: いずれかの回線で、下記エラーの発生履歴あり

(FORMAT, FREQ DEVIATION)

# 11 POWER

LT 7400A の電源状態を表示します。

緑: 正常

赤: 異常発生中

橙: 異常発生履歴あり

#### 12 DC FAN

LT 7400A のファン状態を表示します。

緑: 正常

赤 : 異常発生中

#### 13 SNTP

SNTP サーバーとの接続状態を表示します。

録: 計時基準が SNTP サーバーで、SNTP サーバーと接続★: 計時基準が SNTP サーバーで、SNTP サーバーと切断

無! 計時基準がユーザー設定

# 14 LOG

監視対象回線で、ログが記録されているかを表示します。

緑: 全回線で記録中

黄: いずれかの回線で記録中

無: 全回線で記録停止中

# 15 DETAIL

選択したエリアの詳細画面を開きます。

#### 16 CLEAR

選択したエリアのエラーをクリアします。警告音も停止します。

#### 17 エリア名 / LINE1~LINE8

選択したエリアのエリア名と、LINE1~LINE8を表示します。

#### 18 LINE NAME

詳細設定の「回線名」で設定した回線名を表示します。

#### 19 SIGNAL

選択した回線で、SDI 信号が検出されているかを表示します。

**緑**: 検出 赤: 未検出

#### 20 STATUS

選択した回線のステータスエラーを表示します。橙色よりも赤色が優先されます。

緑: 全項目でエラーなし赤: 下記エラー発生中

(FORMAT, FREQ DEVIATION, SDI, ANC, AUDIO, ANC EMB LINE)

<u>橙</u>: 下記エラーの発生履歴あり (FORMAT、FREQ DEVIATION)

#### 21 LOG FILE

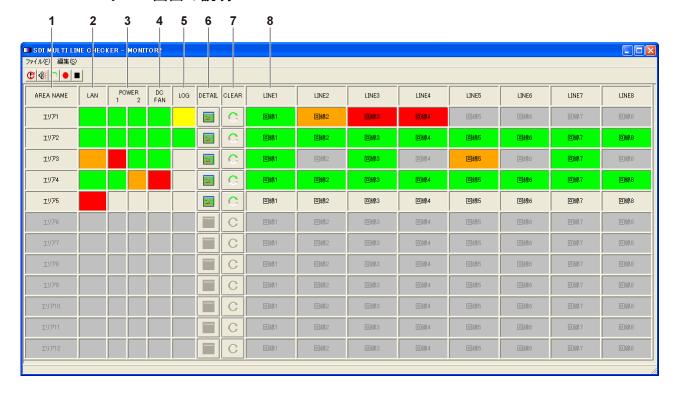
選択した回線のエラーログフォルダを、Windows エクスプローラで開きます。

【参照】「5.3.2 ログの確認」

#### 22 CLEAR

選択した回線の検出エラーとステータスエラーをクリアします。警告音も停止します。

# 6.2 モニター2 画面の説明



#### 1 AREA NAME

環境設定の「エリア名称とネットワーク」で設定したエリア名を表示します。

#### 2 LAN

LT 7400A と PC の接続状態を表示します。

**緑**:接続 赤:切断

橙: 切断履歴あり

#### 3 POWER

LT 7400A の電源状態を表示します。

緑: 正常

赤 : 異常発生中

橙: 異常発生履歴あり

# 4 DC FAN

LT 7400A のファン状態を表示します。

緑 : 正常

赤: 異常発生中

#### 6. PC アプリの説明

#### 5 L0G

監視対象回線で、ログが記録されているかを表示します。

緑 : 全回線で記録中

黄: いずれかの回線で記録中

無 : 全回線で記録停止中

# 6 DETAIL

選択したエリアの詳細画面を開きます。

#### 7 CLEAR

選択したエリアのエラーをクリアします。警告音も停止します。

#### 8 LINE1~LINE8

詳細設定の「回線名」で設定した回線名と、検出エラー、ステータスエラーを表示します。 橙色よりも赤色が優先されます。

緑 : 全項目でエラーなし

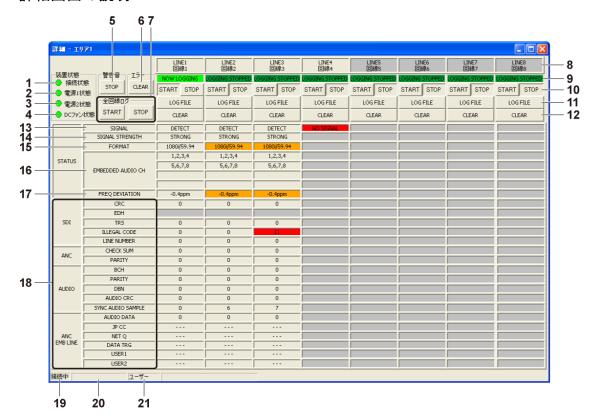
赤 : 下記エラー発生中

(SIGNAL, FORMAT, FREQ DEVIATION, SDI, ANC, AUDIO, ANC EMB LINE)

橙: 下記エラーの発生履歴あり

(FORMAT, FREQ DEVIATION)

# 6.3 詳細画面の説明



# 1 接続状態

LT 7400A と PC の接続状態を表示します。

**禄**:接続 赤:切断

橙: 切断履歴あり

#### 2 電源 1 状態

LT 7400A の電源1の状態を表示します。

緑: 正常

赤: 異常発生中

橙: 異常発生履歴あり

# 3 電源2状態

LT 7400A の電源 2 の状態を表示します。

緑 : 正常

赤 : 異常発生中

橙: 異常発生履歴あり

#### 4 DC ファン状態

LT 7400A のファン状態を表示します。

緑: 正常

赤: 異常発生中

#### 6. PC アプリの説明

# 5 警告音 - STOP

選択したエリアの警告音を停止します。ステータスエラーの発生中は、停止できません。

#### 6 エラー - CLEAR

選択したエリアのエラーをクリアします。警告音も停止します。

#### 7 全回線ログ - START / STOP

START: 選択したエリアの全回線について、エラーログと周波数偏差ログの記録を開始し

ます。

STOP: 選択したエリアの全回線について、エラーログと周波数偏差ログの記録を停止し

ます。

#### 8 LINE1~LINE8

上段にはLINE1~LINE8、下段には詳細設定の「回線名」で設定した回線名を表示します。

#### 9 LOGGING STOPPED / NOW LOGGING

選択した回線で、ログが記録されているかを表示します。

NOW LOGGING : 記録中 LOGGING STOPPED : 記録停止中

### 10 START / STOP

START: 選択した回線の、エラーログと周波数偏差ログの記録を開始します。 STOP: 選択した回線の、エラーログと周波数偏差ログの記録を停止します。

#### 11 LOG FILE

選択した回線のエラーログフォルダを、Windows エクスプローラで開きます。

【参照】「5.3.2 ログの確認」

#### 12 CLEAR

選択した回線のエラーをクリアします。警告音も停止します。

#### 13 SIGNAL

SDI信号が検出されているかを表示します。

DETECT : 検出

NO SIGNAL: 未検出(赤表示)

### 14 SIGNAL STRENGTH

SDI 信号の信号強度を表示します。

STRONG : HD-SDI 時は約~20m、SD-SDI 時は約~50m のケーブルで伝送した場合の強度

MEDIUM : HD-SDI 時は約 20~70m、SD-SDI 時は約 50~200m のケーブルで伝送した場合

の強度

WEAK : HD-SDI 時は約 70m~、SD-SDI 時は約 200m~のケーブルで伝送した場合の強

度

※ HD-SDI 時はLS-5CFB、SD-SDI 時はL-5C2V のケーブルを想定しています。

#### 6. PC アプリの説明

#### 15 FORMAT

SDI 信号のフォーマットを表示します。(以下のフォーマットは一例です)

1080i/59.94: 詳細設定で設定したフォーマット

1080i/60: 詳細設定で設定したフォーマット以外(赤表示)

UNKNOWN: 未対応フォーマット (赤表示)

1080i/59.94: フォーマットエラーの履歴あり(橙表示)

#### 16 EMBEDED AUDIO

エンベデッドオーディオのチャンネルを表示します。

#### 17 FREQ DEVIATION

サンプリング周波数の偏差を表示します。(以下の周波数偏差は一例です) 測定する際の基準信号は、環境設定で「内蔵オシレーター」または「SDI:LINE1/LINE5」 から選択できます。

#### 【参照】「6.5.4 表示と周波数偏差の設定」

| -0.1ppm |: 詳細設定で設定した範囲内

-11.0ppm: 詳細設定で設定した範囲外(赤表示)

REF : 「SDI:LINE1/LINE5」にしたときの、回線1または回線5 NO REF SIG : 「SDI:LINE1/LINE5」で回線1が未検出時の回線2~4、

または回線5が未検出時の回線6~8(赤表示)

-0.1ppm : 周波数偏差エラーの履歴あり(橙表示)

※ 信号の抜き差しや入力フォーマットの変更、周波数偏差の設定を変更したときは、測定値が安定するまでに時間がかかります。5 秒程度経過してから測定してください。

#### 内蔵オシレーター

LT 7400Aの内蔵オシレータを基準として、偏差を測定します。

表示範囲: <-50ppm、-50~+50ppm、>+50ppm

測定精度: ±2ppm

#### SDI:LINE1/LINE5

LINE1 から再生したクロックを基準として、LINE2~LINE4 の偏差を測定します。 LINE5 から再生したクロックを基準として、LINE6~LINE8 の偏差を測定します。

表示範囲: <-50ppm、-50~+50ppm、>+50ppm

測定精度: ±0.1ppm

# 18 エラーカウンタ

エラーの発生数を表示します。(以下のエラーカウント数は一例です)

カウント数は $0\sim9999$ です。以降のエラーはカウントされませんが、エラーログには記録されます。

カウント周期は、環境設定の「接続方法」によって異なります。「LT7400A と PC を LAN へ接続する。」のときは  $1\sim10 {
m sec}$ 、「LT7400A と PC を 1:1 で接続する。」のときは  $50 {
m msec}$ です。

5: 詳細設定で設定した範囲内

15: 詳細設定で設定した範囲外(赤表示)

表 6-1 エラー項目の説明

	項目	内容
SDI	CRC	HD-SDI 信号の伝送エラーを検出
	EDH	SD-SDI 信号の伝送エラーを検出
	TRS	TRS の位置およびプロテクションビットのエラーを検出
	ILLEGAL CODE	TRS、ADF ヘッダ以外での 000h~003h、3FCh~3FFh のデータを検出
	LINE NUMBER	HD-SDI 信号のラインナンバーエラーを検出
ANC	CHECK SUM	アンシラリデータの伝送エラーを検出
	PARITY	アンシラリデータヘッダのパリティエラーを検出
AUDIO	BCH	HD-SDI 信号に多重されたオーディオパケットの伝送エラーを検出
	PARITY	HD-SDI 信号に多重されたオーディオパケットのパリティエラーを検
		出
	DBN	オーディオパケットの連続性エラーを検出
	AUDIO CRC	オーディオデータのチャンネルステータスビットの CRC エラーを検
		出(プロフェッショナルモード時のみ)
	SYNC AUDIO SAMPLE	音声データのサンプル数が同期音声で定められたサンプル数でない
		場合に、エラー検出
ANC	AUIO DATA	オーディオデータの多重位置エラーを検出
EMB LINE	JP CC	日本語字幕の多重位置エラーを検出
	NET Q	放送局間制御信号の多重位置エラーを検出
	DATA TRG	データトリガパケットの多重位置エラーを検出
	USER1	ユーザーデータ 1 パケットの多重位置エラーを検出
	USER2	ユーザーデータ2パケットの多重位置エラーを検出

#### 19 接続状態表示

LT 7400A と PC の接続状態を表示します。(接続中/未接続)

# 20 SNTP サーバー表示

環境設定の「日付と時刻」で SNTP サーバーを選択したときに、サーバーとの接続状態を表示します。 (SNTP サーバ正常/SNTP サーバ異常)

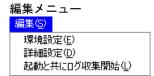
# 21 計時基準表示

環境設定の「日付と時刻」で選択した計時基準を表示します。(ユーザー/SNTP)

# 6.4 メニューバーの説明

モニター画面のメニューバーについて説明します。

# ファイルメニュー ファイル(E) バージョン情報(A) 終了(E)



# ●バージョン情報

「操作PC」には、PCアプリのバージョンを表示します。 「装置」には、「エリア選択」で選択したLT 7400Aのバージョンを表示します。



# ●終了

PCアプリを終了します。画面右上の × でも終了できます。

#### ●環境設定

PCアプリの設定をします。

【参照】「6.5 環境設定」

#### ●詳細設定

エラー検出の設定をします。

【参照】「6.5 環境設定」

#### ●起動と共にログ収集開始

チェックを入れると、PC アプリの起動と共に、全エリア、全回線のエラーログと周波数偏差ログを記録します。

#### 6.5 環境設定

環境設定では、PC アプリに関するさまざまな設定をします。モニター画面のメニューバーから、「編集」→「環境設定」を選択してください。

各項目は、「設定」を押したときに適用されます。「設定」を押さずに「閉じる」を押すと、設定は適用されません。

ここで設定した内容は、PCアプリを終了しても保存されます。

#### 6.5.1 エリア名称とネットワークの設定



#### ●使用/未使用

PC アプリからは、最大 12 台の LT 7400A を監視できます。監視するエリア(LT 7400A)を「使用」、監視しないエリアを「未使用」にしてください。「使用」と「未使用」は、クリックするごとに切り換わります。(「使用」と「未使用」の切り換えも、「設定」を押さないと適用されません)

#### ●AREA NAME

半角 26 文字までのエリア名を入力します。ここで入力したエリア名は、モニター画面やログで使用されます。なお、 $\lceil/$  ¥:\* ?  $\lceil$  < >  $\mid$  # { } % &  $\lceil$  」は入力できません。

#### ●装置 IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、オフライン

・LT 7400A と PC が接続しているとき

「オフライン」のチェックを外してから「設定」を押すことで、LT 7400Aの IP アドレスを変更します。「設定」を押すと LT 7400A が再起動し、設定が有効となります。

【参照】「4.7.1 IPアドレスの変更」

・LT 7400A と PC が切断しているとき

「オフライン」のチェックを外してから「設定」を押すことで、PC アプリの「装置 IP アドレス」を変更します。または、未使用のエリアに LT 7400A を接続します。

【参照】 「4.7.3 IPアドレスのオフライン設定」

#### ●SNTP サーバ

「日付と時刻」の「計時基準」を「SNTPサーバー」にしたときに設定します。「設定」を押すとLT 7400Aが再起動し、設定が有効となります。

# 6.5.2 日付と時刻の設定



### ●計時基準

エラーログと周波数偏差ログに使用する日時を選択します。

# 【参照】「5.3 エラーログと周波数偏差ログ」

ユーザー設定: 「設定日時」で設定した日時を使用します。(初期設定)

SNTP サーバー: SNTP サーバーの日時を使用します。「エリア名称とネットワーク」の

「SNTPサーバ」を設定してください。

#### ●設定日時

「計時基準」を「ユーザー設定」にしたときに、日時を設定します。 ここで表示される日時は設定用で、現在設定されている日時を表示するものではありません。

# 6.5.3 接続方法の設定



# ●接続方法

LT 7400A と PC の接続方法を選択します。

LT7400A と PC を LAN へ接続する。: 選択した通信周期(1~10sec)で測定します。

LT 7400A と PC を 1:1 で接続するときにも選択で

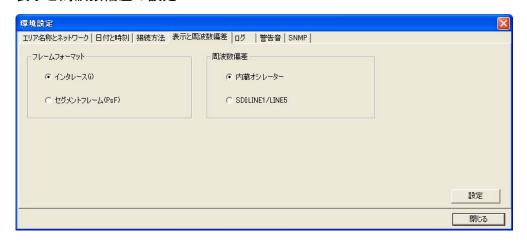
きます。(初期設定)

LT7400A と PC を 1:1 で接続する。: 50msec の通信周期で測定します。

LT 7400A と PC を LAN に接続するときは選択しな

いでください。

### 6.5.4 表示と周波数偏差の設定



#### ●フレームフォーマット

詳細画面の FORMAT にはフォーマットが表示されますが、以下のフォーマットは自動で判別できません。どちらの形式で表示するかを選択します。

#### 【参照】 FORMAT → 「6.3 詳細画面の説明」

- 1080i/60 ≥ 1080PsF/30
- 1080i/59.94 ≥ 1080PsF/29.97
- 1080i/50 ≥ 1080PsF/25

インタレース(i): インタレース(i)で表示します。(初期設定) セグメントフレーム(PsF): セグメントフレーム(PsF)で表示します。

#### ●基準信号

詳細画面の FREQ DEVIATION を測定する際の基準信号を選択します。

【参照】 FREQ DEVIATION → 「6.3 詳細画面の説明」

内蔵オシレーター: LT 7400Aの内蔵オシレータを基準とします。(初期設定)

SDI:LINE1/LINE5: LINE2~LINE4の測定では、LINE1から再生したクロックを基準とし

ます。

LINE6~LINE8 の測定では、LINE5 から再生したクロックを基準とし

ます。

# 6.5.5 ログの設定



#### ●保存場所

エラーログと周波数偏差ログの保存場所を「参照」で選択します。

【参照】「5.3.2 ログの確認」

# ●拡張子

エラーログ、周波数偏差ログ、動作ログのファイル形式を選択します。

TXT: テキスト形式で保存します。(初期設定)

CSV: CSV 形式で保存します。

### ●周波数偏差のログ収集

周波数偏差ログを記録するかどうか、選択します。 エラーログと動作ログは、常に記録されます。

# 6.5.6 警告音の設定



### ●警告音

警告音の種類を「参照」で選択します。WAV 形式のファイルに対応しています。「テスト」を押すと、警告音を再生します。

#### ●SDI のエラー発生以外に以下の条件を含める

検出エラーやステータスエラーの発生時以外に、警告音の鳴る条件を選択します。 検出エラーやステータスエラー発生時の警告音は、詳細設定で回線ごとにオンオフできます。

装置電源異常時に鳴らす: LT 7400A の電源 1、電源 2 のいずれかに異常が発生し

たときに鳴ります。(初期設定: OFF)

装置との接続断に鳴らす: LT 7400A と PC が切断したときに鳴ります。(初期設

定: OFF)

装置 DC ファン異常時に鳴らす: LT 7400A の DC ファンに異常が発生したときに鳴りま

す。(初期設定: ON)

# 6.5.7 SNMP の設定



# ●TRAP 送信先

TRAP 送信先の IP アドレスを設定します。4 か所まで設定できます。 すべてオフにすると、SNMP 機能が無効となります。

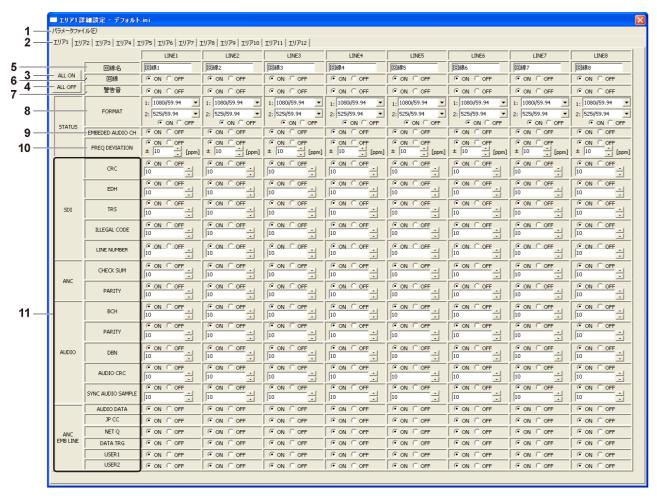
# ●コミュニティ名

SNMP 使用時のコミュニティ名を表示します。

# 6.6 詳細設定

詳細設定では、エラー検出の設定を回線ごとに行います。モニター画面のメニューバーから、「編集」→「詳細設定」を選択してください。

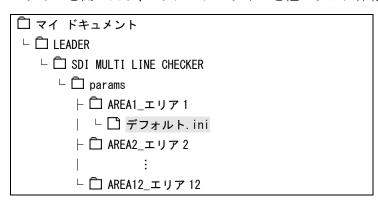
ここで設定した内容は、エリアごとに保存する必要があります。設定を変更したときは、「上書き保存」または「名前を付けて保存」で、パラメータファイルを保存してください。保存せずにタブを移動したり、詳細設定を閉じたりすると、エラーメッセージが表示されます。



# 1 パラメータファイル

パラメータファイルについて設定します。

パラメータファイルは出荷時、以下の場所に「デフォルト. ini」として、エリアごとに保存されています。ファイル操作は自エリアのみで行えます。他エリアにあるパラメータファイルを開いたり、パラメータファイルを他エリアに保存したりすることはできません。



#### 6. PC アプリの説明

開く: パラメータファイルを呼び出します。他エリアにある設定を使用し

たいときは、自エリアにファイルをコピーしてから、呼び出してく

ださい。

上書き保存: 現在開いているパラメータファイルに設定を上書きします。

名前を付けて保存: 名前を付けて設定を保存します。

#### 2 エリア 1~エリア 12

エリアを切り換えます。値を変更したときは、エリアを切り換える前にパラメータファイルを保存する必要があります。

#### 3 ALL ON

全回線の設定を一括で ON にします。

#### 4 ALL OFF

全回線の設定を一括で OFF にします。

#### 5 回線名

#### 6 回線

選択した回線の測定をするかどうか選択します。OFF にすると、以降の項目は設定できません。

#### 7 警告音

検出エラーやステータスエラーが発生したときに、警告音を鳴らすかどうか選択します。

#### 8 FORMAT

エラー検出のオンオフを選択します。

ON にすると、入力フォーマットが設定した 2 つのフォーマット以外のときに、エラーと みなします。(フォーマット 2 は、「なし」にもできます)

なお、以下のフォーマットは同一のものとして扱います。

- 1080i/60 ≥ 1080PsF/30
- 1080i/59.94 \( \sum \) 1080PsF/29.97
- ・1080i/50 と 1080PsF/25

#### 9 EMBEDED AUDIO CH

エンベデッドオーディオのチャンネル表示をオンオフします。

#### 10 FREQ DEVIATION

周波数偏差表示のオンオフを選択します。

ONにすると、周波数偏差が設定したしきい値を超えたときに、エラーとみなします。

#### 11 その他のエラー検出設定

エラーカウンタ表示のオンオフを選択します。

ONにすると、各項目のエラーカウント数が設定したしきい値を超えたときに、エラーと みなします。

# 7. SNMP

SNMP (Simple Network Management Protocol)を使用して、SNMP マネージャから PC アプリの設定 や本器の状態を確認できます。また、本器で発生したエラーを SNMP マネージャに通知することもできます。

なお、SNMP によるリモートコントロールは、ローカルネットワーク環境でのみ動作確認しています。いかなるネットワーク環境での動作を保証するものではありません。

# 7.1 SNMPバージョン

SNMPv1 に対応しています。

# 7.2 SNMPマネージャの設定

本器に SNMP マネージャは付属していません。お客様自身でご用意ください。 なお、SNMP マネージャの使用方法は、SNMP マネージャの取扱説明書を参照してください。

### ●コミュニティ名

Read community: LDRUser
Write community: LDRAdm
TRAP community: LDRUser

#### ●SMI 定義

IMPORTS enterprises, IpAddress FROM RFC1155-SMI OBJECT-TYPE FROM RFC-1212;

#### 7.3 SNMPエージェントの設定

SNMP を使用するには、PC アプリがインストールされている PC に、SNMP エージェントのサービスが起動していることが必要です。以下の手順でインストールしてください。

#### ●Windows XP の場合

- 1. 「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」を選択します。
- 2. 「Windows コンポーネントの追加の削除」を選択します。
- 3. 「管理とモニタツール」→「詳細」を選択します。
- 4. 「簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)」にチェックを入れ、「OK」を選択します。

#### ●Windows Vista または Windows 7の場合

- 1. 「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を選択します。
- 2. 「Windows の機能の有効化または無効化」を選択します。
- 3. 「SNMPの機能」にチェックを入れ、「OK」を選択します。

インストールが完了したら、以下の手順で SNMP エージェントを設定します。

- 1. 「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択します。
- 2. SNMP Service をダブルクリックします。
- 3. 「セキュリティ」タブ→「受け付けるコミュニティ」→「追加」を選択し、以下のコミュニティを追加します。

コミュニティの権利	コミュニティ名		
読み取りのみ	LDRUser		
読み取り、書き込み	LDRAdm		

# 7.4 標準MIB

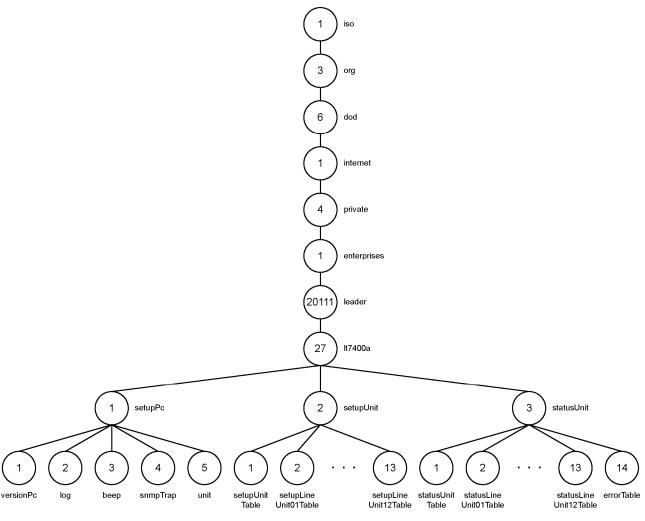
Windows 標準の SNMP エージェントサービス「SNMP Service」が対応している標準 MIB に対応しています。

# 7.5 拡張MIB

# ●拡張 MIB ファイル

「マイ ドキュメント¥LEADER¥SDI MULTI LINE CHECKER¥1t7400a.mib」を使用してください。 このファイルは、PC アプリをインストールしたときに自動で保存されるものです。

### ●拡張 MIB ツリー



# ●拡張 MIB 一覧表

```
leader
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { enterprised 20111 }
1t7400a
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { leader 27 }
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { 1t7400 1 }
setupPc
versionPc
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupPc 1 }
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupPc 2 }
log
beep
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupPc 3 }
snmpTrap
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupPc 4 }
unit
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupPc 5 }
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { 1t7400 2 }
setupUnit
setupUnitTable
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 1 }
setupLineUnitO1Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 2 }
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 3 }
setupLineUnit02Table
setupLineUnit03Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 4 }
setupLineUnitO4Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 5 }
setupLineUnitO5Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 6 }
setupLineUnitO6Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 7 }
setupLineUnitO7Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 8 }
setupLineUnit08Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 9 }
setupLineUnit09Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 10 }
setupLineUnit10Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 11 }
setupLineUnit11Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 12 }
setupLineUnit12Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { setupUnit 13 }
statusUnit
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { 1t7400 3 }
statusUnitTable
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 1 }
statusLineUnit01Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 2 }
statusLineUnit02Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 3 }
statusLineUnit03Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 4 }
statusLineUnitO4Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 5 }
statusLineUnit05Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 6 }
statusLineUnitO6Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 7 }
statusLineUnitO7Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 8 }
statusLineUnit08Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 9 }
statusLineUnit09Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 10 }
statusLineUnit10Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 11 }
statusLineUnit11Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 12 }
statusLineUnit12Table
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 13 }
errorTable
                              OBJECT IDENTIFIER ::= { statusUnit 14 }
```

# 表 7-1 versionPc

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
versionPc	setupPc. 1	OCTET STRING	R/0	PC アプリバージョン

# 表 7-2 log

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
logSavePath	log. 1	OCTET STRING	R/0	ログの保存先
logExt	log. 2	INTEGER	R/0	1 = TXT
				2 = CSV
logFrameFormat	log. 3	INTEGER	R/0	1 = インタレース(i) 2 = セグメントフレー
				2 = セグメントフレー
				ム(PsF)
logFrqDeviation	log. 4	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off

# 表 7-3 beep

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
beepFile	beep. 1	OCTET STRING	R/0	警告音ファイル
beepPowerFail	beep. 2	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
beepConnFail	beep. 3	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
beepDcFanFail	beep. 4	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off

# 表 7-4 snmpTrap

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
snmpTrapUse1	snmpTrap.1	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
snmpTrapDestination1	snmpTrap.2	IpAddress	R/0	TRAP 送信先 1
snmpTrapUse2	snmpTrap.3	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
snmpTrapDestination2	snmpTrap.4	IpAddress	R/0	TRAP 送信先 2
snmpTrapUse3	snmpTrap.5	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
snmpTrapDestination3	snmpTrap.6	IpAddress	R/0	TRAP 送信先 3
snmpTrapUse4	snmpTrap.7	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
snmpTrapDestination4	snmpTrap.8	IpAddress	R/0	TRAP 送信先 4

表 7-5 unit

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
setupUnitConnType	unit.1	INTEGER	R/0	1 = LAN 接続
				2 = 1:1 接続
setupUnitInterval	unit. 2	INTEGER	R/0	1~10
setupUnitSignalBase	unit.3	INTEGER	R/0	1 = 内蔵オシレータ
				2 = SDI:LINE1/LINE5

# 表 7-6 setupUnitTable

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
setupUnitEntry	setupUnitTable.1	-	-	-
setupUnitIndex	setupUnitEntry.1	INTEGER	-	1~12
setupUnitAreaUse	setupUnitEntry.2	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitAreaName	setupUnitEntry.3	OCTET STRING	R/0	エリア名
setupUnitVerSdiSp1	setupUnitEntry.4	OCTET STRING	R/0	ユニット1バージョン
setupUnitVerSdiSp2	setupUnitEntry.5	OCTET STRING	R/0	ユニット2バージョン
setupUnitVerSdiCpu	setupUnitEntry.6	OCTET STRING	R/0	CPU バージョン
setupUnitVerBoot	setupUnitEntry.7	OCTET STRING	R/0	BOOT バージョン
setupUnitVerChecker	setupUnitEntry.8	OCTET STRING	R/0	CHECKER バージョン
setupUnitIpAddress	setupUnitEntry.9	IpAddress	R/0	IPアドレス
setupUnitNetMask	setupUnitEntry.10	IpAddress	R/0	サブネットマスク
setupUnitGateWay	setupUnitEntry.11	IpAddress	R/0	デフォルトゲートウェ
				1
setupUnitSntpServer	setupUnitEntry.12	IpAddress	R/0	時刻サーバー
setupUnitTimeBase	setupUnitEntry.13	INTEGER	R/0	1 = SNTP
				2 = USER

# 表 7-7 setupLineUnitO1Table

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
setupLineUnitO1Entry	setupLineUnitO1Table.1	-	-	-
setupUnitO1LineIndex	setupLineUnitO1Entry.1	INTEGER	-	1~8
setupUnitO1LineName	setupLineUnitO1Entry.2	OCTET STRING	R/0	回線名
setupUnit01LineEnable	setupLineUnitO1Entry.3	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1LineBeep	setupLineUnitO1Entry.4	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnit01Format	setupLineUnitO1Entry.5	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnit01Format1	setupLineUnitO1Entry.6	INTEGER	R/0	2 = 1080i/60
				3 = 1080i/59.94
				4 = 1080i/50
				5 = 1080 p/30
				6 = 1080p/29.97
				7 = 1080p/25
				8 = 1080p/24

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				9 = 1080p/23.98
				10 = 1080PsF/30
				11 = 1080PsF/29.97
				12 = 1080PsF/25
				13 = 1080PsF/24
				14 = 1080PsF/23.98
				15 = 720p/60
				16 = 720p/59.94
				17 = 720p/50
				18 = 720p/30
				19 = 720p/29.97
				20 = 720p/25
				21 = 720p/24
				22 = 720p/23.98
				23 = 525i/59.94
				24 = 625i/50
setupUnitO1Format2	setupLineUnitO1Entry.7	INTEGER	R/0	1 = なし
				2 = 1080i/60
				3 = 1080i/59.94
				4 = 1080i/50
				5 = 1080 p/30
				6 = 1080p/29.97
				7 = 1080p/25
				8 = 1080p/24
				9 = 1080p/23.98
				10 = 1080 PsF / 30
				11 = 1080PsF/29.97
				12 = 1080PsF/25
				13 = 1080PsF/24
				14 = 1080PsF/23.98
				15 = 720p/60
				16 = 720p/59.94
				17 = 720p/50
				18 = 720p/30
				19 = 720p/29.97
				20 = 720p/25
				21 = 720p/24
				22 = 720p/23.98
				23 = 525i/59.94
				24 = 625i/50
setupUnit01EmbAudCh	setupLineUnitO1Entry.8	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1FreqDev	setupLineUnitO1Entry.9	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1FreqDevPpm	setupLineUnitO1Entry.10	INTEGER	R/0	<b>-50∼50</b>
setupUnitO1SdiCrc	setupLineUnitO1Entry.11	INTEGER	R/0	1 = 0n

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				2 = Off
setupUnitO1SdiCrcThr	setupLineUnitO1Entry.12	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1SdiEdh	setupLineUnitO1Entry.13	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1SdiEdhThr	setupLineUnitO1Entry.14	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1SdiTrs	setupLineUnitO1Entry.15	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1SdiTrsThr	setupLineUnitO1Entry.16	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1SdiIllegalCode	setupLineUnitO1Entry.17	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1SdiIllegalCodeThr	setupLineUnitO1Entry.18	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1SdiLineNum	setupLineUnitO1Entry.19	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1SdiLineNumThr	setupLineUnitO1Entry.20	INTEGER	R/0	0~255
setupUnit01AncCheckSum	setupLineUnitO1Entry.21	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1AncCheckSumThr	setupLineUnitO1Entry.22	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1AncParity	setupLineUnitO1Entry.23	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1AncParityThr	setupLineUnitO1Entry.24	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1AudioBch	setupLineUnitO1Entry.25	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1AudioBchThr	setupLineUnitO1Entry.26	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1AudioParity	setupLineUnitO1Entry.27	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1AudioParityThr	setupLineUnitO1Entry.28	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1AudioDbn	setupLineUnitO1Entry.29	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1AudioDbnThr	setupLineUnitO1Entry.30	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1AudioCrc	setupLineUnitO1Entry.31	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1AudioCrcThr	setupLineUnitO1Entry.32	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1AudioSync	setupLineUnitO1Entry.33	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnitO1AudioSyncThr	setupLineUnitO1Entry.34	INTEGER	R/0	0~255
setupUnitO1AncEmbAudioData	setupLineUnitO1Entry.35	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off
setupUnit01AncEmbJPCC	setupLineUnitO1Entry.36	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = 0ff
setupUnitO1AncEmbNETQ	setupLineUnitO1Entry.37	INTEGER	R/0	1 = 0n
	1			2 = 0ff
setupUnitO1AncEmbDTRG	setupLineUnitO1Entry.38	INTEGER	R/0	1 = 0n
		=		2 = 0ff
setupUnitO1AncEmbUser1	setupLineUnitO1Entry.39	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
setupUnit01AncEmbUser2	setupLineUnitO1Entry.40	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off

# 表 7-8 setupLineUnit02Table~setupLineUnit12Table

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
setupLineUnit**Entry	setupLineUnit**Table.1	_	_	-
setupUnit**LineIndex	setupLineUnit**Entry.1	INTEGER	-	1~8
i	÷	:	:	:
setupUnit**AncEmbUser2	setupLineUnit**Entry.40	INTEGER	R/0	1 = 0n
				2 = Off

※ 項目は「setupLineUnit01Table」と同様です。「\*\*」には02~12が入ります。

# 表 7-9 statusUnitTable

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
statusUnitEntry	statusUnitTable.1	_	_	-
statusUnitIndex	setupUnitEntry.1	INTEGER	-	1~12
statusConn	setupUnitEntry.2	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
statusPower1	setupUnitEntry.3	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
statusPower2	setupUnitEntry.4	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
statusDcFan	setupUnitEntry.5	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG

# 表 7-10 statusLineUnitO1Table

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
statusLineUnitO1Entry	statusLineUnitO1Table.1	_	-	-
statusUnitO1LineIndex	statusLineUnitO1Entry.1	INTEGER	_	1~8
statusUnitO1Signal	statusLineUnitO1Entry.2	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
statusUnitO1SignalStrength	statusLineUnitO1Entry.3	INTEGER	R/0	1 = STRONG
				2 = MEDIUM
				3 = WEAK
statusUnitO1Format	statusLineUnitO1Entry.4	INTEGER	R/0	1 = Unknown
				2 = 1080i/60
				3 = 1080i/59.94
				4 = 1080i/50
				5 = 1080 p/30
				6 = 1080p/29.97
				7 = 1080p/25
				8 = 1080p/24
				9 = 1080p/23.98

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				10 = 1080PsF/30
				11 = 1080PsF/29.97
				12 = 1080PsF/25
				13 = 1080PsF/24
				14 = 1080PsF/23.98
				15 = 720p/60
				16 = 720p/59.94
				17 = 720p/50
				18 = 720p/30
				19 = 720p/29.97
				20 = 720p/25
				21 = 720p/24
				22 = 720p/23.98
				23 = 525 i / 59. 94
		COTET OTRINO	D /0	24 = 625i/50
statusUnitO1EmbAudioCh	statusLineUnitO1Entry.5	OCTET STRING	R/0	F1 F1
statusUnitO1FreqDev	statusLineUnitO1Entry.6	OCTET STRING	R/0	-51~51
				(-51: < -50ppm)
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	INTEGED	D /0	(51: > 50ppm)
statusUnitO1SdiCrc	statusLineUnitO1Entry.7	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG 3 = NG (過去)
statusUnitO1SdiCrcErrCnt	statusLineUnitO1Entry.8	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnit01SdiEdh	statusLineUnit01Entry. 9	INTEGER	R/0	1 = 0K
Statusoni toroureun	Statustilleoili to itiliti y. 9	INTEGER	11/0	2 = NG
				2 = NG (過去)
statusUnitO1SdiEdhErrCnt	statusLineUnitO1Entry.10	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnit01SdiTrs	statusLineUnitO1Entry.11	INTEGER	R/0	1 = 0K
	ocacaozinosin conzinci y. 11	THIEGEN	11, 0	2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnitO1SdiTrsErrCnt	statusLineUnitO1Entry.12	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1SdiIllegalCode	statusLineUnitO1Entry.13	INTEGER	R/0	1 = 0K
			1,7, 2	2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnitO1SdiIllegalCodeErrCnt	statusLineUnitO1Entry.14	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1SdiLineNumber	statusLineUnitO1Entry.15	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnitO1SdiLineNumberErrCnt	statusLineUnitO1Entry.16	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnit01AncCheckSum	statusLineUnitO1Entry.17	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnit01AncCheckSumErrCnt	statusLineUnitO1Entry.18	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnit01AncParity	statusLineUnitO1Entry.19	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
statusUnitO1AncParityErrCnt	statusLineUnitO1Entry.20	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1AudioBch	statusLineUnitO1Entry.21	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnitO1AudioBchErrCnt	statusLineUnitO1Entry.22	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1AudioParity	statusLineUnitO1Entry.23	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnitO1AudioParityErrCnt	statusLineUnitO1Entry.24	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1AudioDbn	statusLineUnitO1Entry.25	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnitO1AudioDbnErrCnt	statusLineUnitO1Entry.26	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1AudioCrc	statusLineUnitO1Entry.27	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnitO1AudioCrcErrCnt	statusLineUnitO1Entry.28	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1AudioSync	statusLineUnitO1Entry.29	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnit01AudioSyncErrCnt	statusLineUnitO1Entry.30	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnit01AncEmbData	statusLineUnitO1Entry.31	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnit01AncEmbDataErrCnt	statusLineUnitO1Entry.32	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnit01AncEmbJPCC	statusLineUnitO1Entry.33	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
statusUnit01AncEmbJPCCErrCnt	statusLineUnitO1Entry.34	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnit01AncEmbNETQ	statusLineUnitO1Entry.35	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
			- /-	3 = NG (過去)
statusUnit01AncEmbNETQErrCnt	statusLineUnitO1Entry.36	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1AncEmbDTRG	statusLineUnitO1Entry.37	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
			- /-	3 = NG (過去)
statusUnitO1AncEmbDTRGErrCnt	statusLineUnitO1Entry.38	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1AncEmbUser1	statusLineUnitO1Entry.39	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
1 1 1 1014 5 111 15 0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	INTEGER	D /0	3 = NG (過去)
statusUnitO1AncEmbUser1ErrCnt	statusLineUnit01Entry. 40	INTEGER	R/0	0~9999
statusUnitO1AncEmbUser2	statusLineUnitO1Entry.41	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	INTEGER	D /0	3 = NG (過去)
statusUnitO1AncEmbUser2ErrCnt	statusLineUnitO1Entry.42	INTEGER	R/0	0~9999

表 7-11 statusLineUnit02Table~statusLineUnit12Table

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
statusLineUnit**Entry	statusLineUnit**Table.1	-	_	-
statusUnit**LineIndex	statusLineUnit**Entry.1	INTEGER	_	1~8
i	i i	:	:	::
statusUnit**AncEmbUser2ErrCnt	statusLineUnit**Entry.42	INTEGER	R/0	0~9999

※ 項目は「statusLineUnit01Table」と同様です。「\*\*」には02~12が入ります。

表 7-12 errorTable

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
errorEntry	errorTable.1	-	_	-
errorUnitIndex	errorEntry. 1	INTEGER	_	1~12
errorConn	errorEntry. 2	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorSignal	errorEntry.3	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
errorStatus	errorEntry.4	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorPower1	errorEntry.5	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorPower2	errorEntry.6	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorDcFan	errorEntry.7	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
errorSntp	errorEntry.8	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = 未使用
errorLog	errorEntry.9	INTEGER	R/0	1 = 全回線 START 中
				2 = 全回線 STOP
				3 = いずれかの回線で
				START 中
errorLineO1Status	errorEntry. 10	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorLineO1Signal	errorEntry.11	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
errorLineO2Status	errorEntry.12	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorLineO2Signal	errorEntry.13	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG

# 7. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
errorLineO3Status	errorEntry.14	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorLineO3Signal	errorEntry. 15	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
errorLineO4Status	errorEntry. 16	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorLineO4Signal	errorEntry. 17	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
errorLineO5Status	errorEntry. 18	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorLineO5Signal	errorEntry. 19	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
errorLineO6Status	errorEntry. 20	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorLineO6Signal	errorEntry. 21	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
errorLineO7Status	errorEntry. 22	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorLineO7Signal	errorEntry. 23	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
errorLineO8Status	errorEntry. 24	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG
				3 = NG (過去)
errorLineO8Signal	errorEntry. 25	INTEGER	R/0	1 = 0K
				2 = NG

# 7.6 拡張TRAP

# 7.6.1 注意事項

・ ステータスエラーのエラーカウント数について、PC アプリではしきい値を超えたときに エラーとみなしますが、SNMP では1回のエラーで TRAP を送信します。

# 7.6.2 Specific Trap

表 7-13 Specific Trap

Specific Trap Type (※1)	内容
1	接続異常
2	電源1異常
3	電源2異常
4	DC FAN 異常
5	NO SIGNAL
6	フォーマット異常
7	周波数偏差異常
8	SDI CRC エラー
9	SDI EDH エラー
10	SDI TRS エラー
11	SDI ILLEGAL CODE エラー
12	SDI LINE NUMBER エラー
13	ANC CHECK SUM エラー
14	ANC PARITYエラー
15	AUDIO BCH エラー
16	AUDIO PARITY エラー
17	AUDIO DBN エラー
18	AUDIO CRC エラー
19	SYNC AUDIO SAMPLE エラー
20	ANC EMB LINE AUDIO DATA エラー
21	ANC EMB LINE JP CC エラー
22	ANC EMB LINE NET Qエラー
23	ANC EMB LINE DATA TRG エラー
24	ANC EMB LINE User1 エラー
25	ANC EMB LINE User2エラー

※1 エラーからの復帰時は、+100 した番号を設定します。

# 7.6.3 Variable Binding List

# ●index 1

OID: leader (20111). lt7400a (7400). trapTBL (4). trapStrTBL (1). 1. 0

Syntax: OCTET STRING 範囲: 最大 40 文字

内容: エリア番号、回線番号、エラー情報

(unit),LINE(line)\_(エラー情報) (unit) = エリア番号 (1~12) (line) = 回線番号 (1~8) エラー情報 = 下表参照

例)1,LINE1\_SDI\_CRC

# 表 7-14 エラー情報一覧表

エラー情報	内容		
CONNECT	接続異常		
PWR1	電源1異常		
PWR2	電源2異常		
DC_FAN	DC FAN 異常		
NO_SIGNAL	NO SIGNAL		
UNKNOWN / 1080i/60 / 1080i/59.94 / 1080i/50 / 1080p/30 /	フォーマット異常		
1080p/29.97 / 1080p/25 / 1080p/24 / 1080p/23.98 /			
1080PsF/30 / 1080PsF/29.97 / 1080PsF/25 / 1080PsF/24 /			
1080PsF/23.98 / 720p/60 / 720p/59.94 / 720p/50 /			
720p/30 / 720p/29.97 / 720p/25 / 720p/24 / 720p/23.98 /			
525i/59.94 / 625i/50			
FREQ_DEV	周波数偏差異常		
SDI_CRC	SDI CRC エラー		
SDI_EDH	SDI EDH エラー		
SDI_TRS	SDI TRS エラー		
SDI_ILLEGAL_CODE	SDI ILLEGAL CODE エラー		
SDI_LINE_NUMBER	SDI LINE NUMBERエラー		
ANC_CHECK_SUM	ANC CHECK SUM エラー		
ANC_PARITY	ANC PARITY エラー		
AUDIO_BCH	AUDIO BCH エラー		
AUDIO_PARITY	AUDIO PARITY エラー		
AUDIO_DBN	AUDIO DBN エラー		
AUDIO_CRC	AUDIO CRC エラー		
AUDIO_SYNC	SYNC AUDIO SAMPLE エラー		
ANCEMB_DATA	ANC EMB LINE AUDIO DATA エラー		
ANCEMB_JPCC	ANC EMB LINE JP CC エラー		
ANCEMB_NETQ	ANC EMB LINE NET Q エラー		
ANCEMB_DATA_TRG	ANC EMB LINE DATA TRG エラー		
ANCEMB_USER1	ANC EMB LINE User1 エラー		
ANCEMB_USER2	ANC EMB LINE User2 エラー		

#### 8. ソフトウエアの変更履歴

# 8. ソフトウェアの変更履歴

本書は、以下のバージョンに基づいて作成されています。

・PC アプリバージョン: 4.01

・LT 7400A バージョン: 2.02

PC アプリバージョンは、PC アプリ→ファイル→バージョン情報→操作 PC で確認できます。 LT 7400A バージョンは、PC アプリ→ファイル→バージョン情報→CHECKER で確認できます。

# ●PC アプリバージョン 4.01 / LT 7400A バージョン 2.02

・12 台までの LT 7400A を同時に接続できる機能を追加。

# ●PC アプリバージョン 3.03 / LT 7400A バージョン 2.02

- ・10 台までのLT 7400A を同時に接続できる機能を追加。
- ・SNMP 機能を追加。
- ・周波数偏差ログ機能を追加。
- ・ログの保存先を任意に選択できる機能を追加。

# Following information is for Chinese RoHS only

# 所含有毒有害物质信息

部件号码: LT 7400A



此标志适用于在中国销售的电子信息产品,依据2006年2月28日公布的《电子信息产品污染控制管理办法》以及SJ/T11364-2006《电子信息产品污染控制标识要求》,表示该产品在使用完结后可再利用。数字表示的是环境保护使用期限,只要遵守与本产品有关的安全和使用上的注意事项,从制造日算起在数字所表示的年限内,产品不会产生环境污染和对人体、财产的影响。产品适当使用后报废的方法请遵从电子信息产品的回收、再利用相关法令。详细请咨询各级政府主管部门。

产品中有毒有害物质或元素的名称及含量

部件名称	有毒有害物质或元素 Hazardous Substances in each Part						
Parts	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚	
	(Pb)	(Hg)	(Cd)	(Cr(VI))	(PBB)	(PBDE)	
实装基板	×	0	0	0	0	0	
主体部	×	0	0	0	0	0	
开关电源	×	0	0	0	0	0	
风扇	×	0	0	0	0	0	
外筐	0	0	0	0	0	0	
线材料一套	×	0	0	0	0	0	
附件	0	0	0	0	0	0	
包装材	0	0	0	0	0	0	
电池	0	0	0	0	0	0	

# 备注)

- 〇:表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T11363-2006 规定的限量要求以下。
- ×:表示该有毒有害物质或元素至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T11363-2006 标准规定的限量要求。



# リーダー電子株式会社 http://www.leader.co.jp

本社・国内営業部 〒223-8505 横浜市港北区綱島東2丁目6番33号 (045)541-2122(代表)